

平成28年度

島根大学大学院医学系研究科
看護学専攻

シラバス

島根大学大学院医学系研究科

目 次

【博士前期課程】

1. 目的	1
2. 目標	1
3. 看護学専攻の構成	2
(1) 看護援助学コース	
(2) 看護管理学コース	
(3) 地域・在宅看護学コース	
(4) 母子看護学コース	
(5) 成人（急性・慢性）看護学コース	
(6) 高齢者看護学コース	
(7) 老人看護CNSコース	
4. 履修方法	3
5. 履修モデル	4
6. 修了の要件	5
7. 学位授与	5
8. 長期履修制度と修業年限	5
9. 入学科・授業料の免除及び徴収猶予制度	5
10. 奨学金制度	5
11. 学生教育研究災害傷害保険	5
12. 教育課程表：平成 28 年度入学者用	6
13. 教育課程表：平成 25・26・27 年度入学者用	9
14. 平成 28 年度：大学院授業科目担当者一覧	11
15. 科目解説	
(専門必修科目)	
看護援助学特論	12
看護援助学演習	14
看護管理学特論	16
看護管理学演習	18

地域・在宅看護学特論	20
地域・在宅看護学演習	22
母子看護学特論	24
母子看護学演習	26
成人（急性・慢性）看護学特論	28
成人（急性・慢性）看護学演習	30
高齢者看護学特論	32
高齢者看護学演習	34
高齢者看護学実習	36

(専門選択科目)

リスクマネジメント論	38
看護人材育成論	40
看護情報管理論	42
保健医療福祉政策論	44
母子フィジカルアセスメント方法論	46
重症者フィジカルアセスメント方法論	48
臨床薬理・薬剤学	50
高齢者看護実践論	52
高齢者看護援助論	54
認知症看護論	56
高齢者在宅ケアシステム論	58

(基盤科目)

家族看護援助論	60
看護理論	62
看護倫理	64
コンサルテーション論	66
看護研究方法演習	68

(専門必修科目：修士論文関連)

看護学特別研究	70
---------	----

看護学課題研究	70
修士論文作成の目安と審査スケジュール	71

【博士後期課程】

1. 目的	72
2. 目標	72
3. 履修方法	72
4. 学位論文審査	72
5. 修了の要件	72
6. 学位授与	72
7. 学位論文の公表	73
8. 長期履修制度と修業年限	73
9. 入学料・授業料の免除及び徴収猶予制度	73
10. 奨学金制度	73
11. 学生教育研究災害傷害保険	73
12. 看護学専攻博士後期課程カリキュラム	74
13. 平成28年度：専門科目担当者一覧	75
14. 履修モデル	76
15. 入学から修了までのスケジュール	77
16. 研究指導の標準的なスケジュール	78
17. 科目解説	
(専門科目)	
超高齢看護開発特講	79
安全ケアシステム開発特講	81
研究方法特講	83
超高齢看護学研究演習	85
超高齢看護学特別研究	89
(関連科目)	
地域がん治療学	93
がん医療社会学	95
緩和ケア学	97
環境医学Ⅰ	99

環境医学Ⅱ	101
医学・医療情報学Ⅰ	103
地域医療学Ⅰ	105
地域医療学Ⅱ	107
総合診療学Ⅰ	109
総合診療学Ⅱ	111
臨床医学と社会・環境医学への高度情報学の応用	113
知的財産と社会連携	115
機能性物質・食品の医療応用と環境影響	117

【共通事項】

平成28年度時間割	120
-----------	-----

博士前期課程

科目解説

1. 目的

近年、科学技術の発展はめざましく、医療分野においても先端技術の高度化、関連職種
の専門分化が進展し、保健医療を取り巻く社会情勢は大きく変化した。特に、高齢社会の
到来に伴って疾病構造が変化した結果、病気や障害を抱えながら地域社会の中で日常生活
を営む人々が急増し、在宅看護や介護など、保健・福祉・医療にかかわる看護ニーズが拡大
し、多様化してきている。また、心身症や自殺者の増加など、心のケアを必要とする健康
問題への支援が求められている。

とりわけ島根県は老年人口比率が高く、わが国の高齢社会の抱える問題を先行して体験
していることに加え過疎化が進行する離島や中山間地域を抱えているところから、住民に
豊かな保健・医療・福祉サービスを提供するためのシステムを模索している現状にある。

こうした健康問題の社会的・地域的要請に応じていくためには、高度な看護実践能力を
持ち、保健・医療・福祉の有機的連携を調整する役割を果たせる看護専門職者と看護学研究者
の育成が必須である。

本研究科は、豊かな人間性と幅広い視野をもち、科学的な視点と看護学の理論に支えら
れた卓越した看護実践能力と、創造的な教育・研究能力を持つ人材を育成し、看護学の発
展と地域の保健・医療・福祉の向上に寄与することを目的とする。

2. 目標

各種医療機関、保健・福祉施設、教育・研究機関等で活躍する看護学分野における専門性
の高い人材の育成を行う。

1) 高度な専門職業人の育成

看護の対象となる人々のQOLの向上や看護ケアの質の向上を図るために、深い人間理解
と高度で専門的な知識と技術を有し、専門領域の分野で卓越した看護を提供できる能力を
持つ人材を育成する。広い視野で保健・医療・福祉の資源を有効に活用し、一般看護職者の
ケアの質を向上させるための教育的機能を果たすとともに、専門分野の看護実践の場にお
ける研究活動を推進し、看護学の発展に寄与することのできる人材を育成する。

2) 教育者・研究者の育成

学部教育で修得した専門的知識と技術を基盤にさらに学識を深め、看護学の体系化と看
護技術の開発を積極的に推進していく能力を育成する。看護学の最先端の理論と知識、方
法を学び、急速に進展している看護学の高等教育を担う人材を育成するとともに、博士課
程へ進学し研究者として自立できる能力を有する人材を育成する。

3. 看護学専攻の構成

看護援助学コース、看護管理学コース、地域・在宅看護学コース、母子看護学コース、成人（急性・慢性）看護学コース、高齢者看護学コース・老人看護 CNS コースの7コースで構成されている。

1) 看護援助学コース

ヒューマンケアと看護の質の向上という観点から看護援助に関する理解を深め、あらゆる看護領域の実践の基盤となる対人関係および看護援助技術に関する理論・技術・教育方法について教育・研究を行う。

2) 看護管理学コース

社会のヘルス・ニーズに対応して、最良の看護を組織的に提供し、計画・組織化・支持・調整・統制といった諸活動を展開するために必要な看護管理の理論と方法を修得し、看護管理実践における看護管理技術の検証と更なる開発をめざして教育・研究を行う。

このコースを修了して修士号を取得し、かつ、日本看護協会認定看護管理者規則第19条に定める実務経験を有する者は、認定看護管理者認定審査の受験資格を得られる。

3) 地域・在宅看護学コース

地域の地理的、文化的、社会的環境と密接に関係する人々の健康的な生活を維持するため、個人や家族、学校、職域および集団を対象として、保健・医療・福祉の効果的・効率的連携を可能にする看護と方策について教育・研究を行う。また、一般住民や在宅療養者の生活の質向上に向けて、専門的看護の実践における教育・研究を行う。

3) 母子看護学コース

ライフサイクルと生涯発達の視点に立って、母子関係や家族関係に関連する理論を学び、様々な健康状態にある小児の特性、妊産婦や子どもの健康問題に関する最新の知見や母子保健施策を通して、母子や家族の健全な発達を支援する方策について教育・研究を行う。

5) 成人(急性・慢性)看護学コース

成人期にある患者と家族を対象とし、発達的な特徴を踏まえて健康障害や健康レベルの特徴についての理解を深め、看護の課題を明らかにするとともに、変化する医療や生活環境に対応した看護援助のあり方や方策について教育・研究を行う。

6) 高齢者看護学コース

加齢による変化や疾病・障害を持つ高齢者の健康上の問題と日常生活との関係をアセスメントし、健康的な老年期の生活を維持できる看護の理論と方法について学び、高齢者や家族へのケアをコーディネートすることのできるマネジメント能力やケア開発のための教育・研究を行う。

7) 老人看護CNSコース

老人看護分野において、総合的な判断力と組織的な問題解決力を持って活動し、老人看護実践の発展に貢献できる専門看護師（CNS）の育成を目指す。

4. 履修方法

老人看護 CNS コース専攻者以外は、下記の修了要件を満たすよう、別紙「履修モデル」より必要となる科目を履修する。

区 分		履 修 科 目	単位数
必修	専門必修科目	専攻するコースの特論 : 2 単位 専攻するコースの演習 : 2 単位 看護学特別研究 : 8 単位	12 単位
選択	専門必修科目 専門選択科目	専攻するコース以外の特論及び 専門選択科目	10 単位以上
	基盤科目		8 単位以上
		合 計	30 単位以上

※ 老人看護CNSコース

老人看護 CNS コースは、専門看護師教育課程（老年看護）として認定されている。

下記の修了要件を満たすよう、別紙「履修モデル」より老人看護 CNS 受験資格に必要な科目を履修する。

区 分		履 修 科 目	単位数
必修	専門必修科目	高齢者看護学特論 : 2 単位 高齢者看護学演習 : 2 単位 高齢者看護学実習 : 6 単位 看護学課題研究 : 4 単位	14 単位
選択	専門必修科目 専門選択科目	専攻するコース以外の特論及び 専門選択科目	14 単位以上
	基盤科目		8 単位以上
		合 計	36 単位以上

5. 履修モデル

授業科目名	開講年次	単位数			看護援助学コース	看護管理学コース	地域・在宅看護学コース	母子看護学コース	成人（急性・慢性）看護学コース	高齢者看護学コース	老人看護CNSコース
		講義	演習	実習							
専門必修科目	看護援助学特論	1	2		●						
	看護援助学演習	1		2	●						
	看護管理学特論	1	2			●					☆
	看護管理学演習	1		2		●					
	地域・在宅看護学特論	1	2				●				
	地域・在宅看護学演習	1		2			●				
	母子看護学特論	1	2					●			
	母子看護学演習	1		2				●			☆
	成人（急性・慢性）看護学特論	1	2						●		
	成人（急性・慢性）看護学演習	1		2					●		
	高齢者看護学特論	1	2							●	●
	高齢者看護学演習	1		2						●	●
	高齢者看護学実習	1・2			6						●
	看護学課題研究	2		4							●
看護学特別研究	2		8		●	●	●	●	●		
専門選択科目	リスクマネジメント論	1・2	2			◎					
	看護人材育成論	1・2	2			◎		○			☆
	看護情報管理論	1・2	2			◎					
	保健医療福祉政策論	1・2	2			◎	○				●
	母子フィジカルアセスメント方法論	1・2	2					○			
	重症者フィジカルアセスメント方法論	1・2	2						○		●
	臨床薬理・薬剤学	1・2	2						○		○
	高齢者看護実践論	1・2	2							○	●
	高齢者看護援助論	1・2	2								●
	認知症看護論	1・2	2							○	●
高齢者在宅ケアシステム論	1・2	2							○	●	
基盤科目	家族看護援助論	1・2	2								●
	看護理論	1・2	2								☆
	看護倫理	1・2	2								☆
	コンサルテーション論	1・2	2								☆
	看護研究方法演習	1・2		2							☆

●必修 ○履修することが望ましい科目 ◎認定看護管理者認定審査受験者必修 ☆CNS共通選択科目

（備考）基盤科目は、8単位以上、専門必修科目は、各コースの特論2単位及び演習2単位並びに看護学特別研究8単位（CNSコースは課題研究4単位）、専攻するコース以外の専門必修科目の特論及び専門選択科目から10単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。なお、老人看護CNSコースの履修については、指導教員の指導を受けること。

6. 修了の要件

本課程に原則として2年以上在学し、所定の単位(30単位以上、老人看護CNSコースにあっては36単位以上)を修得し、かつ、必要な研究指導を受けて修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格することとする。

7. 学位授与

修士(看護学)

8. 長期履修制度と修業年限

修業年限は2年であるが、社会人学生の就学を支援するために、島根大学学則第29条に則り、長期履修制度を導入する。

申請により当該制度の利用許可を得た学生は、修業年限の2倍の年限まで修業することができる。

9. 入学料・授業料の免除及び徴収猶予制度

入学料については、経済的理由によって納付が困難であり、かつ学業優秀であると認められる者、あるいは、特別の事情(入学前1年以内に、入学する者の学資負担者が死亡、または、入学する者もしくは学資負担者が風水害等の被害を受けた場合等)により納付が困難であると認められる者に対して、その全額または半額が免除される制度及び徴収を猶予される制度がある。授業料については、全額または半額が免除される制度がある。

10. 奨学金制度

日本学生支援機構奨学金

学業成績、人物とも優れた学生で、経済的理由により修学困難な者には、選考のうえ奨学金が貸与される。(平成27年度貸与月額 第一種:無利子 50,000円または88,000円、第二種:有利子 50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円)

11. 学生教育研究災害傷害保険、学研災付帯賠償責任保険

教育研究活動中に万一事故等により、身体等に損害を被った場合あるいは他人に対する賠償責任が発生した場合に保険金を支払う制度である。財団法人日本国際教育支援協会が実施し、学生全員が加入する保険である。

12. 教育課程表:平成28年度入学者用

- (1) 看護援助学コース,看護管理学コース,地域・在宅看護学コース,母子看護学コース,
成人(急性・慢性)看護学コース,高齢者看護学コース

授業科目等	開講 年次	単位数		摘 要
		講義	演習	
専門必修科目	看護援助学特論	1	2	看護援助学コース必修
	看護援助学演習	1	2	
	看護管理学特論	1	2	看護管理学コース必修
	看護管理学演習	1	2	
	地域・在宅看護学特論	1	2	地域・在宅看護学コース必修
	地域・在宅看護学演習	1	2	
	母子看護学特論	1	2	母子看護学コース必修
	母子看護学演習	1	2	
	成人(急性・慢性)看護学特論	1	2	成人(急性・慢性)看護学 コース必修
	成人(急性・慢性)看護学演習	1	2	
高齢者看護学特論	1	2	高齢者看護学コース必修	
高齢者看護学演習	1	2		
看護学特別研究	2		8	全コース必修
専門選択科目	リスクマネジメント論	1・2	2	
	看護人材育成論	1・2	2	
	看護情報管理論	1・2	2	
	保健医療福祉政策論	1・2	2	
	母子フィジカルアセスメント方法論	1・2	2	
	重症者フィジカルアセスメント方法論	1・2	2	
	臨床薬理・薬剤学	1・2	2	
	高齢者看護実践論	1・2	2	
	高齢者看護援助論	1・2	2	
	認知症看護論	1・2	2	
	高齢者在宅ケアシステム論	1・2	2	
基盤科目	家族看護援助論	1・2	2	
	看護理論	1・2	2	
	看護倫理	1・2	2	
	コンサルテーション論	1・2	2	
	看護研究方法演習	1・2		
(備考) 基盤科目は、8単位以上、専門必修科目は、各コースの特論2単位及び演習2単位並びに看護学特別研究8単位の計12単位、専攻するコース以外の専門必修科目の特論及び専門選択科目から10単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。				

(2) 老人看護CNSコース

授業科目等		必修	選択必修	開講年次	単位数		
					講義	演習	実習
専門必修科目	看護援助学特論			1	2		
	看護管理学特論		○	1	2		
	地域・在宅看護学特論			1	2		
	母子看護学特論			1	2		
	成人（急性・慢性）看護学特論			1	2		
	高齢者看護学特論	○		1	2		
	高齢者看護学演習	○		1		2	
	高齢者看護学実習	○		1・2			6
	看護学課題研究	○		2		4	
専門選択科目	リスクマネジメント論			1・2	2		
	看護人材育成論		○	1・2	2		
	看護情報管理論			1・2	2		
	保健医療福祉政策論	○		1・2	2		
	母子フィジカルアセスメント方法論			1・2	2		
	重症者フィジカルアセスメント方法論	○		1・2	2		
	臨床薬理・薬剤学			1・2	2		
	高齢者看護実践論	○		1・2	2		
	高齢者看護援助論	○		1・2	2		
	認知症看護論	○		1・2	2		
	高齢者在宅ケアシステム論	○		1・2	2		
基盤科目	家族看護援助論	○		1・2	2		
	看護理論		○	1・2	2		
	看護倫理		○	1・2	2		
	コンサルテーション論		○	1・2	2		
	看護研究方法演習		○	1・2		2	
<p>(備考)</p> <p>必修科目28単位及び選択必修科目8単位以上、合計36単位以上を修得しなければならない。</p>							

附 則

- この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 平成27年度以前の入学者（当該入学者と同学年に転入学，再入学する者を含む。）の履修については、この規則による改正後の島根大学大学院医学系研究科規則別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

《CNS 認定科目との対比表》

専門看護師認定に必要な共通科目

CNS 共通科目	本大学院該当科目	履修単位	CNS 認定単位
看護教育論	看護人材育成論	2	2
看護管理論	看護管理学特論	2	2
看護理論	看護理論	2	2
看護研究	看護研究方法演習	2	2
コンサルテーション論	コンサルテーション論	2	2
看護倫理	看護倫理	2	2
看護政策論			

専門看護師認定に必要な専門科目【老年看護】

	CNS 科目	本大学院該当科目	履修単位	CNS 認定単位	
専攻分野	1. 老年健康生活評価に関する科目	高齢者看護学特論	2	2	
		重症者フィジカルアセスメント方法論	2	1	
	2. 老年と家族の看護に関する科目	高齢者看護実践論	2	1	
		家族看護援助論	2	1	
	3. 老年サポートシステムに関する科目	高齢者在宅ケアシステム論	2	2	
	4. 老年保健福祉政策に関する科目	保健医療福祉政策論	2	1	
	専攻分野	専攻分野 1. 病院・施設における老年看護に関する科目	高齢者看護援助論	2	2
			2. 認知症老年看護に関する科目	認知症看護論	2
実習	実習	高齢者看護学実習	6	6	

13. 教育課程表:平成25・26・27年度入学者用

- (1) 看護援助学コース,看護管理学コース,母子看護学コース,成人看護学コース,
地域在宅看護学コース,高齢者看護学コース

授業科目等	開講 年次	単位数		摘 要
		講義	演習	
専門必修科目	看護援助学特論	1	2	看護援助学コース必修
	看護援助学演習	1	2	
	看護管理学特論	1	2	看護管理学コース必修
	看護管理学演習	1	2	
	母子看護学特論	1	2	母子看護学コース必修
	母子看護学演習	1	2	
	成人看護学特論	1	2	成人看護学コース必修
	成人看護学演習	1	2	
	地域在宅看護学特論	1	2	地域在宅看護学コース必修
	地域在宅看護学演習	1	2	
高齢者看護学特論	1	2	高齢者看護学コース必修	
高齢者看護学演習	1	2		
看護学特別研究	2		8	全コース必修
専門選択科目	リスクマネジメント論	1・2	2	
	看護人材育成論	1・2	2	
	看護情報管理論	1・2	2	
	保健医療福祉政策論	1・2	2	
	母子フィジカルアセスメント方法論	1・2	2	
	重症者フィジカルアセスメント方法論	1・2	2	
	臨床薬理・薬剤学	1・2	2	
	* 高齢者看護実践論	1・2	2	
	* 高齢者看護援助論	1・2	2	
	認知症看護論	1・2	2	
	* 高齢者在宅ケアシステム論	1・2	2	
	グリーフ看護論	1・2	2	
基盤科目	家族看護援助論	1・2	2	
	* 看護理論	1・2	2	
	看護倫理	1・2	2	
	コンサルテーション論	1・2	2	
	看護研究方法演習	1・2		
(備考)				
基盤科目は、8単位以上、専門必修科目は、各コースの特論2単位及び演習2単位並びに看護学特別研究8単位の計12単位、専攻するコース以外の専門必修科目の特論及び専門選択科目から10単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。				

(2) 老人看護CNSコース

授業科目等		必修	選択 必修	開講 年次	単位数		
					講義	演習	実習
専門必修科目	看護援助学特論			1	2		
	看護管理学特論		○	1	2		
	母子看護学特論			1	2		
	成人看護学特論			1	2		
	地域在宅看護学特論			1	2		
	高齢者看護学特論	○		1	2		
	高齢者看護学演習	○		1		2	
	高齢者看護学実習	○		1・2			6
看護学課題研究	○		2		4		
専門選択科目	リスクマネジメント論			1・2	2		
	看護人材育成論		○	1・2	2		
	看護情報管理論			1・2	2		
	保健医療福祉政策論	○		1・2	2		
	母子フィジカルアセスメント方法論			1・2	2		
	重症者フィジカルアセスメント方法論	○		1・2	2		
	臨床薬理・薬剤学			1・2	2		
	高齢者看護実践論	○		1・2	2		
	高齢者看護援助論	○		1・2	2		
	認知症看護論	○		1・2	2		
	高齢者在宅ケアシステム論	○		1・2	2		
グリーフ看護論			1・2	2			
基盤科目	家族看護援助論	○		1・2	2		
	看護理論		○	1・2	2		
	看護倫理		○	1・2	2		
	コンサルテーション論		○	1・2	2		
	看護研究方法演習		○	1・2		2	
(備考) 必修科目28単位及び選択必修科目8単位以上、合計36単位以上を修得しなければならない。							

附 則

- この規則は、平成23年4月1日から施行する。
- 平成22年度以前の入学者（当該入学者と同学年に転入学、再入学する者を含む。）の履修については、この規則による改正後の島根大学大学院医学系研究科規則別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 前項の規定によりなお従前の例によることとされる平成22年度以前に入学した者に係る授業科目には、改正後の島根大学大学院医学系研究科規則別表第3に規定する*印を付した授業科目を加えることができる。
- 前項の規定に基づき履修した授業科目について修得した単位は、島根大学大学院医学系研究科規則第11条第2項に規定する単位としては認定しないものとする。

14. 平成28年度:大学院授業科目担当者一覧

区分	授業科目	担当教員 ○: 責任者
看護援助学コース 専門必修科目	看護援助学特論	不開講
	看護援助学演習	不開講
看護管理学コース 専門必修科目	看護管理学特論	○内田・草刈 (嘱託)
	看護管理学演習	○津本・内田・小林・福間・宮本
地域・在宅看護学コース 専門必修科目	地域・在宅看護学特論	○小笹・岡本 (嘱託)
	地域・在宅看護学演習	○小笹
母子看護学コース 専門必修科目	母子看護学特論	○三瓶・福田・岸 (学内)・野澤 (嘱託)
	母子看護学演習	○三瓶・福田・秋鹿
成人(急性・慢性)看護学コース 専門必修科目	成人(成人・慢性)看護学特論	○矢田・宮下 (嘱託)
	成人(成人・慢性)看護学演習	○矢田・橋本・森山
高齢者看護学コース 専門必修科目	高齢者看護学特論	○原
	高齢者看護学演習	○原・小野
老人看護 CNS コース 専門必修科目	高齢者看護学実習	○原・小野
	看護学課題研究	○原
専門選択科目	リスクマネジメント論	○内田・嶋森 (嘱託)
	看護人材育成論	○津本・任 (嘱託)
	看護情報管理論	○津本・石垣 (嘱託)・岩田 (学内)
	保健医療福祉政策論	○小笹・岸(嘱託)・牧野(嘱託)・馬庭(嘱託)
	母子フィジカルアセスメント方法論	○三瓶・福田・他5名 (学内)
	重症者フィジカルアセスメント方法論	○橋本・森山
	臨床薬理・薬剤学	○小林・直良 (学内)
	高齢者看護実践論	○原・小野・泉 (嘱託)
	高齢者看護援助論	○原・小野・吉岡 (嘱託)・塩川 (嘱託)
	認知症看護論	○原・浦上(嘱託)・吉岡(嘱託)
	高齢者在宅ケアシステム論	○原・谷垣(嘱託)・高山(嘱託)・三輪(嘱託)
基盤科目	家族看護援助論	○矢田・鈴木 (嘱託)
	看護理論	○福間・津本・内田・長田 (嘱託)
	看護倫理	○内田・小野・清水 (嘱託)
	コンサルテーション論	○内田・宇佐美(嘱託)・長田(嘱託)・鶴屋(嘱託)
	看護研究方法演習	○津本・小林・橋本・内田・小笹・福間・秋鹿
看護学特別研究	(主指導教員) 内田・津本・小林・三瓶・福田・ 矢田・橋本・小笹・原・福間 (副指導教員) 秋鹿	

看護援助学特論

単位数：2単位

1. 科目の教育方針

医療・看護を取り巻く環境が時代とともにどのように変化しても、人々が看護職に期待するものは安全かつ質の保障された看護であり、その際の人間的なあたたかい対応である。このヒューマンケアは看護の古くて新しいテーマであり、人々が主体的に問題解決に取り組んでいく過程を支える援助関係の技術である。

本科目では、看護実践の基盤となる援助関係や看護技術など、看護援助に関する理論・技術・教育方法について修得する。また、看護職者の対人援助能力の向上を支援する教育（基礎/卒後）の方法や、看護援助に関する研究の動向について学習する。

2. 教育目標

- 1) 対人援助関係に関する理論、技術、学問的背景について理解する。
- 2) 看護実践における援助関係の意義、対話的ケアの方法、評価方法について修得する。
- 3) 看護職者の対人援助能力の開発・向上を支援するための教育方法および看護研究の動向について理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 対人援助関係に関する専門知識・技術について、文献・資料・VTR事例教材などを用いて講義する。
- 2) 各自の学習経験や看護経験から生じた疑問や問題意識に基づいて、ディスカッションや事例を題材とした演習を行う。
- 3) 対人援助関係や看護技術など看護援助に関する先行研究検討についてグループワークを行う。

【評価】

授業への主体的参加、プレゼンテーション、レポートにより総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

授業中に参考文献・資料を提示する。

5. 教育内容

回	内 容
1	援助関係に関する学問的背景 用語、援助関係の定義、援助の目標、面接の方法
2	面接の実際、援助者の態度とスキル
3	看護における援助関係の意義、特殊性、対話的ケアの方法
4	看護面接の実際、傾聴のスキル
5	援助関係に焦点をあてた看護理論発展の歴史と動向
6	看護実践における看護相談機能
7	看護相談の意義、看護場面における援助の実際
8	援助関係の促進をめざす教育方法、評価方法
9	看護援助の評価 1
10	看護援助の評価 2
11	看護援助の評価 3
12	看護援助学領域における研究課題
13	研究動機と問題意識 1
14	研究動機と問題意識 2
15	研究動機と問題意識 3

看護援助学演習

単位数：2単位

1. 科目の教育方針

看護援助の質の向上や、看護方法・教育方法（基礎/卒後）の開発をめざし、関心ある領域の研究課題を見出す。先行研究文献や看護援助について批判的考察を行い、問題意識に基づいて研究計画書を作成するまでの体験を通して、研究的態度と研究手法を身につける。

2. 教育目標

- 1) 看護援助領域における研究課題および主要な概念について理解する。
- 2) 各自の問題意識に基づいて先行研究の文献検討を行い、研究テーマの絞り込み、研究目的、研究方法等の見通しをたてることができる。
- 3) 研究テーマについて、論理的かつ実地的な研究計画書を作成できる。
- 4) プレゼンテーションの効果的な方法を身につける。
- 5) 研究者としての基本的態度を身に付ける。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 修士論文作成に向けて先行研究レビューを行い、研究計画書を作成する。
- 2) 研究プロセスを通して学んだことや疑問について、プレゼンテーションやディスカッションを行う。
- 3) 講座ゼミや修士論文発表会等に主体的に参加し、各自の修士論文作成の参考にする。

【評価】

評価は、研究に取り組む態度、プレゼンテーションおよび研究計画書の内容により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

授業中に資料・文献を紹介する。

5. 教育内容

回	内 容
1・2	1. 研究動機の明確化 文献検討の計画
3・4	2. 先行研究検討によるテーマの絞り込み 関心テーマにおける文献検討 (1)
5・6	関心テーマにおける文献検討 (2)
7・8	関心テーマにおける文献検討 (3)
9・10	関心テーマにおける文献検討 (4)
11・12	関心テーマにおける文献検討 (5)
13・14	3. 研究計画書 (案) の作成 仮テーマ 文献レビュー 問題提起
15・16	研究の目的と意義 研究デザイン
17・18	概念枠組み 研究対象 結果の予測
19・20	データ収集方法、分析方法
21・22	データ収集方法、分析方法、倫理的配慮
23・24	4. 予備研究の実施
25・26	結果の分析、修正部分の検討
27・28	5. 研究計画書の修正
29・30	6. 看護研究申請書類の作成、提出

看護管理学特論

単位数：2単位

内田宏美：基礎看護学講座教授

草刈淳子：獨協医科大学大学院看護学研究科特任教授

1. 科目の教育方針

看護専門職には、社会のヘルスニーズに対して看護の仕事の仕組みを自ら変革し、創造していく能力、保健医療福祉等の関連サービスに携わる人々と連携・協働して活動する実践能力が求められる。質の高い看護を実現するためには、組織やチームの中でメンバーを巻き込んでそれを具現化していくためのマネジメントの機能が働かなければならない。組織やチームの看護活動をマネジメントする能力は、看護管理者のみならず、CNSや大学院修了者などの高度看護実践者に必要不可欠な能力として期待されている。

看護管理における課題の解決にあたっては、保健医療そのものの知識のみならず、心理学、教育学、社会学、経営学などの多岐にわたる学問領域の知見と成果を活用することが求められる。看護に関連する保健医療システムの現状と問題点の特性を理解した上で、関連する諸理論の枠組みを活用して看護管理上の問題を批判的に分析し、解決していくための基礎的能力の修得を授業の柱とする。

2. 教育目標

- 1) 看護管理学の歴史と背景を理解し、今日の保健医療福祉システムの中での看護管理の位置づけと課題を展望できる。
- 2) 組織管理に関する諸理論を活用して、看護実践・教育・研究の場における諸現象を看護管理の視点で批判的に分析することができる。
- 3) 看護マネジメントに関する現実的な問題に対して、原因を分析し、具体的かつ効果的な解決策を計画・実行・評価する試みを通して、看護管理の問題解決過程の方法を習得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 基本テキストを熟読し、自ら文献検討を行い、問題意識を持って授業に臨む。
- 2) 組織論・リーダーシップ論・変革理論に関する文献を批判的に考察しつつ講読し、プレゼンテーションとディスカッションにより、看護管理の課題を深く探求する。
- 3) 看護管理における発生型問題に焦点を当て、理論を手掛かりとして問題点を分析し、解決のための戦略を検討する。

【評価】

レジュメ、プレゼンテーション、レポートの緻密さ・的確さ・論理性等により総合的に判断する。

4. 使用テキスト、参考文献等

- 1) 井部俊子・中西睦子監修『看護管理学習テキスト①-⑦』日本看護協会出版会
- 2) 内野崇『変革のマネジメント』生産性出版、2006
- 3) 大串正樹『ナレッジマネジメント 創造的な看護管理のための12章』医学書院、2007
- 4) P.F.ドラッカー（上田惇夫訳）『経営者の条件』ダイヤモンド社、2006

5. 教育内容

※ 前期(火) 18:00~19:30

回	月/日	内 容	講師
1	4/12	I. 看護サービス・マネジメント論 ・看護サービスという考え方 ・看護サービス提供プロセス	内田
2	4/19	I. 看護サービス・マネジメント論 ・看護サービスの標準化と看護の質保証 ・プロセス評価 ・アウトカム評価	内田
3	4/26	II. 看護組織論 ・集団と組織、組織論の系譜、官僚制の特徴と逆機能	内田
4	5/10	II. 看護組織論 ・近代組織論・ネットワーク組織論	内田
5	5/17	II. 看護組織論 ・医療組織の特徴、専門職支配と権威勾配	内田
6	5/20(金) 17:00-18:30 5/21(土) 10:00-14:30	*看護管理の視点、考え方 III. 看護管理プロセスと問題解決の技法 ・発生型問題の解決手法 ・発生型問題の解決手法 (演習)	草刈
7		IV. 看護専門職と看護管理の歴史的考察 ・専門職とは何か ・近代看護と看護専門職	
8			
9	5/31	III. 看護管理プロセスと問題解決の技法 ・発生型問題の解決手法 (演習)	内田
10	6/7	III. 看護管理プロセスと問題解決の技法 ・発生型問題の解決手法 (演習)	内田
11	6/14	II. 看護組織論 ・効果的な看護マネジメントのための組織化 ・協働のためのチーム・マネジメント	内田
12	6/21	V. 看護管理者論 ・リーダーシップ理論の系譜 ・看護組織におけるリーダーシップ	内田
13	6/28	V. 看護管理者論 ・変革理論 ・看護組織の文化風土を変革する	内田
14	7/5	V. 看護管理者論：変革理論と組織変革	内田
15	7/12	V. 看護管理者論：リーダーシップと組織変革	内田
		まとめ課題レポート 〆切 7/19 ・看護管理における問題解決過程の展開と評価 ⇒実践を評価し、次の課題を明確化し、実践を方向付ける	内田 草刈

【参考図書】

- 1) 日本看護歴史学会編, 川島みどり・草刈淳子他監修『日本の看護のあゆみ 歴史をつくるあなたへ』、日本看護協会出版、2008
- 2) オーラ・リー・ストリックランド他：看護アウトカムの測定、エルピア・ジャパン、2006

看護管理学演習

単位数：2 単位

津本 優子：基礎看護学講座教授
内田 宏美：基礎看護学講座教授
小林 裕太：基礎看護学講座教授
福間 美紀：基礎看護学講座准教授
宮本まゆみ：基礎看護学講座講師

1. 科目の教育方針

看護管理における活動を、理論的且つ実践的に進めていくために必要な知識・技術の修得を目指す。そのための基本となる、主体的研究態度と研究手法を身につける。

2. 教育目標

- 1) 看護管理学領域における課題を多面的に捉える。
- 2) 自己の関心領域の研究の現状と課題を的確にとらえ、自らが取り組むべきオリジナルな研究テーマを見出せる。
- 3) 看護管理に関する課題に研究的視点で取り組み、問題解決のための研究的アプローチの手法を修得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) プレゼンテーションとディスカッションを基本的な学習スタイルとする。
- 2) 修士論文のテーマに関連した分野を中心に検討し、研究の取り組みと連動させて学習を深める。
 - (1)研究倫理審査の申請に向けて研究デザインをまとめる。
 - (2)1月の論文提出に向けて、年内に基本的な準備を終えることを目標とする。

【評価】

・レジュメ、プレゼンテーションの緻密さ、的確さ、論理性、参加度等によりに総合的に判断する。

4. 参考文献(その他、授業の中で随時紹介する)

- 1)
- 2)
- 3) 井部俊子・中西睦子監修：看護管理学習テキスト ⑧看護管理学研究
- 4) 同 ⑨看護管理学研究資料
- 5) APA・江藤裕之他訳：APA論文作成マニュアル、医学書院、2004

5. 教育内容

(16:30~19:30)

回	月/日	内 容	講師
1・2	7/28	I. 研究動機の明確化：文献検討の方向付け	津本・内田 小林・福岡・宮本
3・4	9/27	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本・内田 小林・福岡・宮本
5・6	10/4	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本・内田 小林・福岡・宮本
7・8	10/14 (金) 8:45- 15:00	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：2年生の研究成果中間報告会に参加し研究プロセスをイメージする。	津本・内田 小林・福岡・宮本
9・10	10/18	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本・内田 小林・福岡・宮本
11・12	10/25	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本・内田 小林・福岡・宮本
13・14	11/1	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本・内田 小林・福岡・宮本
15・16	11/8	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本・内田 小林・福岡・宮本
17・18	11/15	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本・内田 小林・福岡・宮本
19・20	11/22	II. 看護管理の研究領域と課題の検討 ：関心テーマに沿った文献検討	津本・内田 小林・福岡・宮本
21・22	12/6	III. 文献検討のまとめと研究テーマの明確化 ：研究の文献的背景について整理した結果を発表 ⇒修士論文として取り組む研究テーマの明確化 ⇒研究の目的・意義の明確化 ⇒研究デザイン・研究方法の決定	津本・内田 小林・福岡・宮本
23・24	12/20	IV. 研究計画書の作成と検討 ：調査内容・分析方法の明確化と妥当性の検討	津本・内田 小林・福岡・宮本
25・26	1/10	IV. 研究計画書の作成と検討 ：研究背景、目的、意義、方法の明文化	津本・内田 小林・福岡・宮本
27・28	1/24	IV. 研究計画書の作成と検討 ：研究計画書全体の提示、プレテスト等の実施	津本・内田 小林・福岡・宮本
29・30	2/7	IV. 研究計画書の作成と検討 ：研究計画最終点検、看護研究倫理委員会申請の準備	津本・内田 小林・福岡・宮本
		※2年生の修士論文発表会(2月上旬)に参加 ：研究プロセスと修士論文作成のイメージ化を図る。 ※研究計画の中間発表会(3月上旬) ⇒看護研究倫理委員会に申請(2/20or3/20 締切)	

地域・在宅看護学特論

単位数：2単位

小笹美子：地域・老年看護学講座 教授

岡本玲子：大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 教授

1.科目の教育方針

地域で暮らす人々の生活を支えるために地域看護の歴史的変遷や地域看護の理論を学び、地域で生活する個人、家族、集団、組織の健康課題を理解する。特に、生活弱者、健康弱者の健康課題とその支援方法について事例を通して学ぶ。これらを踏まえ、地域看護の実践に必要な基礎的知識、研究方法について学ぶ。

2.教育目標

- 1) 地域看護に関する基本的概念や理論について理解する。
- 2) 地域看護が展開されるさまざまな場における地域保健活動も視野において、地域で生活する人々の健康づくりと保健行動を支援するための知識・技術を習得する。
- 3) 個人家族、集団、組織の健康レベル向上の課題を理解し、効果的な看護支援方法を学ぶ。

3.教育の方法、進め方、評価等

【進め方】

講義、学生によるプレゼンテーションと討議を中心に授業を進める。
受け身ではなく積極的に学ぶこと。

【評価】

授業への出席、レポート、討議への参加から総合的に評価を行う。

4.使用テキスト、参考文献等

テキストは特に指定せず、参考文献等を適宜紹介する。

5.教育内容

回	月 日	内 容	講師
1	4月12日	地域看護学の歴史	小笹
2	4月19日	地域で生活を営む個人家族・集団・組織の健康と保健 行動(1)	小笹
3	4月26日	地域で生活を営む個人家族・集団・組織の健康と保健 行動(2)	小笹
4	5月10日	地域の健康課題	小笹
5	5月17日	地域看護の支援に用いる概念モデル(1) プライマリ・ヘルス・ケア	小笹
6	5月24日	地域看護の支援に用いる概念モデル(2) 疫学	小笹
7	5月31日	地域看護の支援に用いる概念モデル(3) ヘルスプロモーション	小笹
8	6月7日	地域の活動事例(1)	小笹
9	6月14日	地域の活動事例(2)	小笹
10	6月21日	地域の活動事例(3)	小笹
11	6月28日	地域における連携と協働	小笹
12	7月5日	地域の支援困難事例	小笹
13	7月12日	へき地・離島における地域看護活動	小笹
14・15	集中講義 (土)	地域看護活動と研究	岡本

地域・在宅看護学演習

単位数：2単位

小笹美子：地域・老年看護学講座 教授

1. 科目の教育方針

地域看護学領域における関心のあるテーマについて、研究計画書作成までのプロセスを体験し、基本的な研究能力の獲得を目指す。

2. 教育目標

- 1) 地域看護学領域における国内外における研究の動向と最新の知見を理解できる。
- 2) 研究テーマに関連した文献レビューやクリティークを行い、研究テーマに関する課題を明確にできる。
- 3) 研究課題に基づき研究計画を作成することができる。
- 4) 研究を行うために不可欠な研究倫理を理解した上で研究を実施することができる。

3. 評価

【進め方】

学生の事前学習を踏まえたプレゼンテーションと討議を中心に授業を進める。受け身ではなく積極的に学ぶこと。

【評価】

授業への出席、レポート、討議への参加から総合的に評価を行う。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは特に指定せず、参考文献等を適宜紹介する。

参考図書：松村真司、臨床家のための臨床研究デザイン塾テキスト③ 概念モデルをつくる、特定非営利活動法人健康医療評価研究機構

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1・2	9月27日	地域看護領域における研究の意義と研究倫理	小笹
3・4	10月4日	研究の種類と研究計画書の作成	小笹
5・6	10月11日	地域看護領域における文献検索と文献研究(1)	小笹
7・8	10月18日	地域看護領域における文献検索と文献研究(2)	小笹
9・10	11月1日	地域領域における研究課題と研究テーマ(1)	小笹
11・12	11月8日	地域領域における研究課題と研究テーマ(2)	小笹
13・14	11月15日	研究テーマと研究デザイン(量的研究)	小笹
15・16	11月22日	研究テーマと研究デザイン(質的研究)	小笹
17・18	11月29日	研究計画書の作成(1)	小笹
19・20	12月6日	研究計画書の作成(2)	小笹
21・22	12月13日	研究計画書の作成(3)	小笹
23・24	12月20日	成果発表とプレゼンテーション(1)	小笹
25・26	1月17日	成果発表とプレゼンテーション(2)	小笹
27・28	1月24日	研究計画書の作成(4)	小笹
29・30	1月31日	研究計画書の作成(5)	小笹

母子看護学特論

単位数：2単位

三瓶 まり：臨床看護学講座教授

福田 誠司：臨床看護学講座教授

岸 和子：こころの診療部講師

野澤美江子：東京工科大学医療保健学部看護学科教授

1. 科目の教育方針

ライフサイクルと生涯発達の視点に立って、母子関係および家族関係に関連する理論を学び、特に健康に問題を持つ小児と家族の特性、小児の健康問題に関する最新の知見や母子保健・福祉施策を通して母子および家族の健全な発達を支援する方策について学習する。

2. 教育目標

- 1) 青年期の性に対する意識と行動、妊娠中の胎児認知、母性意識の発達が妊娠・出産及びその後の母子の健康に与える影響について考察し、母子および家族の健全な関係発展に向けての看護介入の方法を学習する。
- 2) 小児とその家族を取り巻く現代の社会状況を多面的に理解するとともに、心理的側面からの理解を深め、健康に問題をもつ小児の成長・発達を支援していくために、諸理論を検討しながら、看護の果たす役割と援助方法について学習する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 講義および学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。
- 2) 母子および家族の健全な発達を支援する立場から方法論について議論を深める。

【評価】

講義への参加状況、プレゼンテーション内容、レポートにて総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは使用しない。

- 1) ルヴァ・ルービン著：新道幸恵、後藤桂子訳 母性論 母性の主観的体験.医学書院 1997
- 2) 上田礼子：生涯人間発達学.改訂2版 三輪書店 2005
- 3) 堀内成子監修：助産師の意思決定.エルゼビア・ジャパン 2006
- 4) 武田鉄郎：腎疾患児の自己効力感と対処行動.主観的健康統制感との関連 入院している中学部生徒を対象に 国立特殊教育総合研究所研究紀要 27巻 1-9, 2000

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	4/12	日本における母子保健の現状	三瓶
2	4/19	母性論 1 (ルービンがとらえる母性の対象)	三瓶
3	4/26	母性論 2 (妊婦の理解とその看護)	三瓶
4	5/24	母性論 3 (褥婦の理解とその看護)	三瓶
5	5/31	妊娠・出産期における女性への看護 (分娩の安全を確保するための取り組み)	三瓶
6	6/7	育児期にある女性への看護 (産後のメンタルヘルス)	三瓶
7	6/14	子どもの貧困とその背景	三瓶
8	6/21	子どものこころのケアと育児支援	岸
9	6/18	小児医療における研究の動向	福田
10	7/5	小児医療における研究の動向	福田
11	7/12	母子の健康と環境	三瓶
12	7/19	母子看護にみる看護の原点	三瓶
13	7/26	アレルギーをもつ子どもと家族への看護	福田 (秋鹿)
14	8月上旬	不妊に悩むカップルのケア	野澤
15	8月上旬	不妊に悩むカップルのケア	野澤

母子看護学演習

単位数：2単位

三瓶 まり：臨床看護学講座教授

福田 誠司：臨床看護学講座教授

秋鹿 都子：臨床看護学講座准教授

1. 科目の教育方針

母子看護領域における関心あるテーマについて、研究計画書の作成までの研究プロセスを体験し、基本的な研究能力の獲得をめざす。

また、妊娠・出産・子育てをめぐる問題について、母子および家族の健全な発達を支援する具体的な援助方法について学ぶ。また、健康上の課題をもつ小児と家族への援助方法について学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 母子看護領域における関心あるテーマに関する文献検討を行い、関係する概念、研究デザイン、研究目的、研究方法等を検討し、倫理面を考慮した研究計画書の作成ができる。
- 2) 青年期の性に対する意識と行動、妊娠・出産をめぐる健康上の課題について国内外の文献から検討し、母性を育成する方策や援助のあり方、周産期における母子援助の方策について学習する。
- 3) 長期療養児やターミナル期にある小児と家族を事例として、看護上の課題を明らかにし、看護職の果たす役割について総合的に理解できるように演習を行う。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

国内外の文献、事例、研究の実例を活用する。

【評価】

評価は演習への主体的参加状況等によって行う。

4. 参考文献等

テキストは使用しない。

- 1) The American Journal of Maternal Child Nursing
- 2) 及川郁子 監修, 村田恵子編著：病いと共に生きる子どもの看護. メヂカルフレンド社 2000
- 3) 及川郁子 監修, 田原幸子編著：予後不良な子どもの看護. メヂカルフレンド社 2000
- 4) 渡辺裕子：看取りにおける家族ケア. 医学書院 2005
- 5) 才木クレイク・ヒル滋子著：闘いの軌跡 小児がんによる子どもの喪失と母親の成長. 島書店 1999

5. 教育内容

回	内 容	講師
1・2	母子看護領域における問題意識、研究テーマについて	三瓶・福田
3・4	母子看護領域において関心あるテーマに関する文献検討（1）	三瓶 秋鹿
5・6	母子看護領域において関心あるテーマに関する文献検討（2）	三瓶 秋鹿
7・8	母子看護領域において関心あるテーマに関する文献検討（3）	三瓶 秋鹿
9・10	母子看護領域において関心あるテーマに関する文献検討（4）	三瓶 秋鹿
11・12	母子看護領域において関心あるテーマに関する文献検討（5）	三瓶 秋鹿
13・14	母子看護領域において関心あるテーマに関する研究方法の検討（1）	三瓶 秋鹿
15・16	母子看護領域において関心あるテーマに関する研究方法の検討（2）	三瓶 秋鹿
17・18	母子看護領域において関心あるテーマに関する研究方法の検討（3）	三瓶 秋鹿
19・20	研究における倫理的配慮	三瓶
21・22	研究計画書の作成（1）	三瓶・福田 秋鹿
23・24	研究計画書の作成（2）	三瓶・福田 秋鹿
25・26	研究計画書の作成（3）	三瓶・福田 秋鹿
27・28	研究計画書の作成（4）	三瓶・福田 秋鹿
29・30	研究計画書の作成（5）	三瓶・福田 秋鹿

成人（急性・慢性）看護学特論

単位数：2単位

矢田昭子：臨床看護学講座教授

宮下美香：広島大学保健学科教授

1. 科目の教育方針

疾患をもつ成人期の患者と家族の理解や看護援助について、必要な理論及び新しい知見を学習する。そして学習した理論や知見を臨床看護に応用できるように個々の体験に基づいて分析し、看護援助のあり方について検討する。これらをふまえて、成人期の患者と家族に対する看護および研究の方法について探求する。

2. 教育目標

- 1) 成人看護学に関する概念や理論を理解できる。
- 2) 疾患をもつ成人と家族の看護上の問題や現象について理論を用いて分析できる。
- 3) 疾患をもつ成人と家族を援助する方法を理解し、より効果的な援助方法を検討する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 自ら文献検討を行い、問題意識を持って授業に臨む。
- 2) 講義や学生の事前学習を踏まえたプレゼンテーションと討論によって進める。

【評価】

講義、事前学習を踏まえたプレゼンテーションや討論への参加状況から総合的に評価する。

4. テキスト

テキストは特に指定しない。

【参考図書】

- 1) 野川道子：看護実践に活かす中範囲理論，メヂカルフレンド社，2010.
- 2) 小島操子：看護における危機理論・危機介入改訂2版，金芳堂，2008.
- 3) E. キューブラー・ロス著，鈴木 晶訳：死ぬ瞬間—死とその過程について，中公文庫，2001.
- 4) 恒藤暁：系統緩和医療学講座，身体症状のマネジメント，最新医学社，2013.
- 5) 原書編集：Kenneth D. Miller [監修] 勝俣範之 [訳] 金容壺 大山万容：がんサバイバー，医学書院，2012.
- 6) [編集] 大西和子、飯節京子：がん看護学，ヌーヴェルヒロガワ，2011

5. 教育内容

14:30~16:00

回	月/日	内 容	講師
1	4/12	成人期の保健・健康課題	矢田
2	4/19	成人期の看護の対象の特性と看護の特徴	矢田
3	4/26	急激な身体侵襲時の看護の基盤となる概念と理論、 研究の動向	矢田
4	5/10		
5	5/17	事例検討	矢田
6	5/24	慢性期の看護の基盤となる概念と理論、 研究の動向	矢田
7	5/31		
8	6/7	事例検討	矢田
9	6/14	ターミナルケア・緩和ケアの基盤となる概念と理論、 研究の動向	矢田
10	6/21		
11	6/28	事例検討	矢田
12	7/5	グリーフケア	矢田
13	7/12	事例検討	矢田
14	集中講義 未定	がん患者の理解と看護援助の基盤となる概念と理 論、研究の動向	宮下
15			

※嘱託講師は集中講義とする

成人（急性・慢性）看護学演習

単位数：2単位

矢田昭子：臨床看護学講座教授

橋本龍樹：臨床看護学講座教授

森山美香：臨床看護学講座講師

1. 教育方針

成人看護学領域における興味・関心のある研究課題について研究計画書を作成し、看護研究に必要な基礎的な能力を修得する。

2. 教育目標

- 1) 成人看護学領域における研究の動向と最新の知見を理解できる。
- 2) 研究疑問に関連した文献検討を行い、研究課題を明確にできる。
- 3) 研究課題に基づき、研究計画の作成ができる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

学生の事前学習を踏まえたプレゼンテーションと討論によって進める。

【評価】

プレゼンテーションや討論への参加状況、研究計画書の作成過程を総合的に評価する。

4. テキスト

テキストは特に指定しない。随時、提示する。

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1・2	10/4	看護実践における研究課題、事例分析 (1)	矢田・橋本 森山
3・4	10/11	看護実践における研究課題、事例分析 (2)	矢田・橋本 森山
5・6	10/18	関心テーマにそった文献検討とクリティーク(1)	矢田・橋本 森山
7・8	10/25	関心テーマにそった文献検討とクリティーク(2)	矢田・橋本 森山
9・10	11/1	関心テーマにそった文献検討とクリティーク(3)	矢田・橋本 森山
11・12	11/8	関心テーマにそった文献検討とクリティーク(4)	矢田・橋本 森山
13・14	11/15	研究方法 (1)	矢田・橋本 森山
15・16	11/22	研究方法 (2)	矢田・橋本 森山
17・18	11/29	研究方法 (3)	矢田・橋本 森山
19・20	12/6	研究方法 (4)	矢田・橋本 森山
21・22	12/13	研究における倫理的配慮の検討	矢田・橋本 森山
23・24	12/20	研究計画書の作成と討論 (1)	矢田・橋本 森山
25・26	1/24	研究計画書の作成と討論 (2)	矢田・橋本 森山
27・28	1/31	研究計画書の作成と討論 (3)	矢田・橋本 森山
29・30	2/7	研究計画書の作成と討論 (4)	矢田・橋本 森山

高齢者看護学特論

単位数：2単位

原 祥子：地域・老年看護学講座教授

1. 科目の教育方針

高齢者の健康問題に適切に対処していくためには、高齢者看護学に関する基本的な概念や諸理論、健康生活に関する評価方法とその技術を活用し、加齢のプロセスで生じる心身の健康問題と生活への影響について適切な判断と評価を行うことが求められる。高齢者の健康生活を支える看護実践に向けて、高齢者の健康生活上のニーズの査定に必要な理論と方法の修得を目指す。

2. 教育目標

- 1) 高齢者看護学に関する基本的概念や理論について理解する。
- 2) 高齢者健康生活評価の諸側面と視点、評価方法の実際を学ぶ。
- 3) 高齢者の健康生活を維持・促進するための看護援助について検討する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

【評価】

文献抄読レポート、プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) E.H.エリクソン, J.M.エリクソン, H.Q.キヴニック：老年期, みすず書房, 1997.
- 2) E.H.エリクソン, J.M.エリクソン：ライフサイクル・その完結, みすず書房, 2001.
- 3) 天田城介：〈老い衰えゆくこと〉の社会学, 多賀出版, 2010.
- 4) 南博文, やまだようこ編集：老いることの意味, 金子書房, 1995.
- 5) 辻正二：高齢者ラベリングの社会学, 恒星社厚生閣, 2000.
- 6) プリシラ・エバーソール, 他：ヘルシー・エイジング, エルゼビア・ジャパン, 2007.
- 7) 鳥羽研二編著：高齢者の生活機能の総合的評価, 新興医学出版社, 2010.
- 8) 鳥羽研二監修：高齢者総合的機能評価ガイドライン, 厚生科学研究所, 2003.
- 9) 岡本祐三, 他：高齢者医療福祉の新しい方法論, 医学書院, 1998.
- 10) 安梅勅江：エンパワメントのケア科学 当事者主体チームワーク・ケアの技法, 医歯薬出版, 2004.

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	4/12	老いを生きる人を理解するための理論 ・加齢に関する理論 ・適応とサクセスフルエイジング ・生涯発達理論、ライフサイクル理論	原
2	4/19		
3	4/26	老いを生きる人々の健康生活を支える看護（1） ・高齢者の全体論的視点、高齢者看護の定義	原
4	5/10	老いを生きる人々の健康生活を支える看護（2） ・「老いを生きること」に関する文献 ¹⁾²⁾ の抄読 （プレゼンテーションと討論）	原
5	5/17		
6	5/24		
7	5/31	高齢者の健康生活評価に関する理論と方法 ・高齢者総合評価（CGA）の背景と意義、構成とプロセス	原
8	6/7	高齢者の健康生活に関する評価（1） ・身体機能(ADL・IADLなど)、精神機能	原
9	6/14	高齢者の健康生活に関する評価（2） ・生理機能、感覚機能、認知機能	原
10	6/21	高齢者の健康生活に関する評価（3） ・主観的健康感、幸福感、生活満足度、QOL	原
11	6/28	高齢者の健康生活に関する評価（4） ・環境の快適性と安全性、社会関係 （住環境、ソーシャルネットワークなど）	原
12	7/5	高齢者の健康生活に関する評価（5） ・家族機能（介護負担など）	原
13	7/12	高齢者の健康生活支援に向けて ・エンパワメントの概念とその適用、評価指標	原
14	7/19	高齢者の健康生活アセスメント（事例検討：思考プロセスの明確化）	原
15	7/26	高齢者の人権と権利擁護（健康生活を営む権利と自己決定）	原

高齢者看護学演習

単位数：2単位

原 祥子：地域・老年看護学講座教授

小野 光美：地域・老年看護学講座講師

1. 科目の教育方針

各自の関心領域における看護ケアの実施・参加観察・実験・調査等を踏まえた実践的検討および文献の批判的考察による理論的検討を通して、疾病や障害をもつ高齢者の生活に生起する現象の探究、保健・医療・福祉施設や在宅で生活する高齢者とその家族への看護モデルの開発を目指した研究方法を追究する。

2. 教育目標

- 1) 高齢者看護における国内外の研究の動向を把握する。
- 2) 自己の問題意識と追究課題を絞り込む。
- 3) 自己の研究課題の位置づけについて、看護実践の改善や看護モデル開発の視点で捉える。
- 4) 研究方法を具体化させるプロセスを理解する。
- 5) 高齢者看護研究における倫理的側面を理解したうえで、効果的に研究を推進していくための方法を修得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

【評価】

プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) 横山美江編：よくわかる看護研究の進め方・まとめ方－エキスパートをめざして、医歯薬出版，2005.

5. 教育内容

回	内 容	講師
1・2	高齢者看護における国内外の研究動向	原
3・4	関心領域における高齢者看護事例の実践的検討（1）	原
5・6	関心領域における高齢者看護事例の実践的検討（2）	原
7・8	関心テーマにおける文献検討（1）	原・小野
9・10	関心テーマにおける文献検討（2）	原・小野
11・12	関心テーマにおける文献検討（3）	原・小野
13・14	問題意識と追究課題の検討（1） 追究課題の背景	原・小野
15・16	問題意識と追究課題の検討（2） 追究課題に関連する先行文献のレビュー	原・小野
17・18	問題意識と追究課題の検討（3） 課題の追究に必要なかつ有効な諸理論の検討	原・小野
19・20	研究課題に適した研究方法の検討（1）	原・小野
21・22	研究課題に適した研究方法の検討（2）	原・小野
23・24	高齢者看護研究に必要な倫理的配慮の検討	原・小野
25・26	研究計画書の作成	原
27・28	研究計画書の発表・討論（1）	原・小野
29・30	研究計画書の発表・討論（2）	原・小野

高齢者看護学実習

単位数：6 単位

原 祥子：地域・老年看護学講座教授

小野 光美：地域・老年看護学講座講師

1. 科目の教育方針

高齢者看護について創意工夫をしながら優れた看護活動を行っている病院、介護保険施設、訪問看護ステーション等において、豊富な高齢者看護実践経験をもつ看護職者の指導のもとでの看護実践を通して、直接的な看護実践の能力を向上させるとともに、相談、ケア調整、倫理調整、スタッフ教育の能力を開発する。実習を通して、高齢者看護ケアを変革・発展させていくことのできる老人看護専門看護師としての視点を養う。

2. 教育目標

- 1) 既習の理論やモデルを適用し、複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族に対して、適切なアセスメントに基づく判断、問題解決へ向けた看護援助の実践、援助結果の適切な評価ができる。
- 2) 実習指導者の指導のもとに（実習指導者とともに）行われた看護実践、相談、調整等について、その意図や方略、評価方法を理解する。
- 3) 高齢者とその家族、専門職者間で生じた倫理的課題に対する調整方法を理解する。
- 4) スタッフへの教育的働きかけや教育的環境づくり等、継続教育における老人看護専門看護師の役割を理解する。
- 5) 高齢者看護の組織・機関における実践的研究課題を見出し、その課題の解決の方向性について考察することができる。

3. 実習施設・時期および内容

1) 病院・施設における高齢者看護実習

【実習施設】松江市立病院

【実習時期】1年次2・3月～2年次4月の4週間

【実習内容】実習指導者の指導のもとに、高齢者とその家族に対する看護実践を行い、老人看護専門看護師が果たす相談・ケア調整・倫理調整・スタッフ教育の役割について、実習施設における実践を通して学ぶ。

2) 認知症高齢者看護実習

【実習施設】介護老人保健施設ナーシングセンターあけぼの

グループホーム太陽の里（認知症対応型共同生活介護）

太陽の里デイサービスセンター（認知症対応型通所介護事業所）

【実習時期】2年次5～6月の4週間

【実習内容】実習指導者の指導のもとに、認知症高齢者とその家族に対する看護実践を行い、相談・ケア調整・倫理調整・スタッフ教育について、実習施設における実践を通して学ぶ。

3) 在宅における高齢者看護実習

【実習施設】にし出雲訪問看護ステーションたんぼぼ

又は

訪問看護ステーションやすらぎ

【実習時期】1年次～2年次前期の週2日程度、4週間

【実習内容】実習指導者の指導のもとに在宅療養高齢者への看護活動を体験する。

4. 評価

実習内容、レポートのほか、学生の自己評価および実習指導者の意見を踏まえて、単位認定者（原 祥子）が総合的に判断し評価する。

5. 備考

詳細については、別途、高齢者看護学実習要項を提示する。

内田宏美：基礎看護学講座教授

嶋森好子：東京都看護協会会長

1. 科目の教育方針

医療安全管理体制の整備が診療報酬システム上でも制度化され、医療リスクマネジメントを推進するための基盤は一応整ったといえる。しかし、高度化・複雑化する医療におけるリスクは増大し続けており、リスクマネジメントの効果的な展開のための理論的方法を構築する必要に迫られている。本科目では、臨床現場の医療安全推進者に照準を当て、組織横断的なネットワークを基盤としたリスクマネジメントの理論的な方法に重点を置いて学習する。

2. 教育目標

- 1) 医療リスクマネジメントの理念・概念・理論・基本的な方法を理解する。
- 2) 現場の医療安全推進者としての活動の遂行に必要な基礎的知識と技術を修得する。
- 3) 医療安全管理者に求められる知識と・技術を理解し、その役割を展望する。
- 4) 医療安全の遂行における情報ネットワークの必要性・重要性を理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 基本テキストを熟読し、自ら文献検討を行い、問題意識を持って授業に臨む。
- 2) 臨床現場の取組みを批判的に分析し、ディスカッションをふまえて課題を解決するための改善策を見出す。

【評価】

評価は授業への主体的参加度、課題学習、プレゼンテーション、課題レポート等により総合的に行う。

4. 使用テキスト、参考文献等

1) 基本テキスト

- (1) Lコーン：人は誰でも間違える、日本評論社、2000
- (2) 河野龍太郎：医療におけるヒューマンエラー、医学書院、2004

2) 参考図書

- (1) Lコーン：医療の質、日本評論社、
 - (2) Lコーン：患者の安全、日本評論社
 - (3) 今中雄一監訳：医療安全のエビデンス-患者を守る実践方策、医学書院、2005
 - (4) 嶋森好子・他：病棟から始めるリスクマネジメント、医学書院、2003
 - (5) 内田宏美・他：実践から学ぶ病院リスクマネジメント、診断と治療社、2005
 - (6) Jリーズン：保守事故-ヒューマンエラーの未然防止のマネジメント、日科技連、2005
- *その他、授業の中で適宜紹介する。

5. 教育内容

※後期前半(木)12:45～14:15

回	月/日	内 容	講師
1	7/3(日)	※ 米子市コンベンションセンター	内田
2	10:30～	医療リスクマネジメントの実際(山陰リスクマネジメント研究会)	
3	15:30	医療安全ネットワーク構築の実際	
4	10/6	リスクマネジメント概説 ・医療リスクマネジメントの理念、説明モデル・プロセス	内田
5	10/20	リスクマネジメントの方法 ・医療リスクマネジメントにおける PDCA サイクル ・医療安全推進機能の組織化と協働システム 危機管理 ・事故発生時の対応 ・紛争・訴訟の発生防止	内田
6	10/27	医療安全管理者の役割と機能 ・リーダーシップと組織変革 ・情報プロセッシングパワーの活用 医療安全管理者の役割と機能 ・リーダーシップと組織変革 ・情報プロセッシングパワーの活用	内田
7	11/10	我が国の医療安全の取り組みの経緯 医療安全ネットワークの構築	嶋森
8	14:00～ 17:15	医療安全における看護職の責任 ・当事者支援における課題 ・行政処分を受けた看護師の教育基盤の整備	
9	11/17	リスクマネジメントの理論と不法：基礎文献講読 ・「TO ERROR IS FUMAN」	内田
10	12/1	リスクマネジメントの理論と不法：基礎文献講読 ・「TO ERROR IS FUMAN」	内田
11	12/8	リスクマネジメントの理論と方法 ・ヒューマンエラーの原理 ・エラー分析の手法	内田
12	12/15	リスクマネジメントの理論と方法 ・事例検討：背景要因の分析と事故防止対策の立案	内田
13	12/22	リスクマネジメントの理論と方法 ・事例検討：背景要因の分析と事故防止対策の立案	内田
14	1/5	リスクマネジメントの理論と方法 ・事例検討：背景要因の分析と事故防止対策の立案	内田
15	1/12	リスクマネジメントの理論と方法 ・事例検討：背景要因の分析と事故防止対策の立案	内田
		課題レポート 〆切 1/19 (木) ：医療安全における看護専門職の責務と課題	内田

看護人材育成論

単位数：2 単位

津本優子：基礎看護学講座教授

任 和子：京都大学大学院医学研究科

人間健康科学系専攻教授

1. 科目の教育方針

専門職としての看護職は、時代の変化に対応して、幅広い視点から社会の健康問題を捉え、自ら課題に取り組み、自らの役割を開拓していかなければならない。特に、CNSをはじめとする大学院修了者には、看護継続教育を企画し運営して、看護専門職の人材育成においてリーダーシップを発揮することが期待されている。

本科目では、専門職としての生涯学習の観点から、看護基礎教育の基盤の上に看護実践能力を効果的に発展させるための看護継続教育の考え方と方法を、理論的根拠に基づいて学習する。さらに、実際の教育計画を批判的に分析し、改善策を検討することをとおして、人材育成と活用に必要な洞察力や判断力、問題解決能力を高めることを目指す。

2. 教育目標

- 1) 看護学の基礎教育及び継続教育の歴史と現状、課題を理解する。
- 2) 看護専門職のキャリア開発における基本概念、理論を理解する。
- 3) 看護継続教育の実際を批判的に分析し、改善すべき課題を明確化できる。
- 4) ジェネラリスト育成のモデルプランを作成できる。
- 5) スペシャリスト活用における課題を明確化し、対策を提示できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) ゼミナール形式で行う。
- 2) 学生の課題に対するプレゼンテーションに基づいて討論し、学習を深める。

【評価】

評価は出席、授業の参加度、プレゼンテーションの内容、レポートを総合的に評価する。

4. 参考文献等

- 1) 小山真理子編集、看護教育の原理と歴史、医学書院、2003.
- 2) P.ベナー（井部俊子訳）：ベナー看護論、医学書院
- 3) 平井さよ子：看護職のキャリア開発、変革期のヒューマンリソースマネジメント、日本看護協会出版会、2002
- 4) 渡辺三枝子編著『新版 キャリアの心理学』ナカニシヤ出版、2007
- 5) エドガーH.シャイン『キャリア・アンカー 自分の本当の価値を発見しよう』白桃書房、2003

*その他 随時、授業で紹介する

5. 教育内容

(木) 14:30~16:00

回	月/日	内 容	講師
1	10/6	看護専門職としてのキャリア	津本
2	10/13 (木)	看護人材育成と活用の実際 ・ジェネラリストの育成と活用の実際と課題	任
3	12:45- 16:00	・スペシャリスト育成と活用 ・ジェネラリストとスペシャリストの効果的な協働	
4	10/20	看護継続教育をめぐる動向と展望及び課題	津本
5	10/27	専門職業人とキャリア 1) 専門職の概念 2) 生涯発達心理学の視点とキャリア 3) 専門職業人としての看護職のキャリア・ディベロップメント	津本
6	11/17	看護専門職業人の育成 1) ベナー看護論 2) ベナー看護論の活用：クリニカルラダー・システム	津本
7	11/24	①ラダーの段階 ②臨床実践能力の3側面 3) クリニカルラダーによるジェネラリストの育成 ①卒後継続教育の視点と方法	津本
8	12/1	看護専門職業人の育成 3) クリニカルラダーによるジェネラリストの育成 ②新人～一人前看護師の看護実践能力育成の視点・方法・課題	津本
9	12/8	③中堅～ベテラン看護師の臨床実践能力育成の視点・方法・課題 4) 専門看護師の教育的機能、スペシャリストの育成と課題 5) 看護管理者、教育研究者の育成と課題	津本
10	12/15	看護学教育評価の視点と方法 ：評価の目的・プロセスと種類・評価方法	津本
11	1/5	ラダーシステムによる教育プログラムの作成 演習①臨床実践能力の帰納的分類、実践能力育成課程の構造化	津本
12	1/12	演習② 教育目標・評価方法・教育方法の設定：新卒看護師	津本
13	1/19	演習③ 教育目標・評価方法・教育方法の設定：一人前看護師	津本
14	1/26	演習④ 教育目標・評価方法・教育方法の設定：中堅看護師	津本
15	2/2	演習⑤ ジェネラリストとスペシャリストの協働モデルの検討	津本
		まとめ 課題レポート：人材育成における課題と対策 ㄨ切 2/9(木)	津本

看護情報管理論

単位数：2単位

津本優子：基礎看護学講座教授

石垣恭子：兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科教授

1. 科目の教育方針

看護実践における情報収集・処理、問題の選択・抽出、優先順位の決定、実施、評価という基本過程に十分な検討を加え、地域社会、在宅日常生活における、地理的、時間的、空間的事象をつなぐ情報特性を用いた連携、継続、システム構築においての理論、手技を看護基礎科学分野の一部として位置づけ、教授する。

2. 教育目標

- 1) 看護と情報に関する基本的知識を深める。
- 2) 看護情報システムの在り方や構築方法について理解する。
- 3) 看護情報の標準化について適用を試みる
- 4) 看護情報教育について現状を知り、情報教育の在り方を認識する。
- 5) 地域医療情報システムについて理解し、認識を深める。
- 6) 情報倫理と個人情報保護法について理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 基本テキストより、分担課題に関する事前学習を行い、パワーポイント、資料を用いて、担当学生がプレゼンテーションを行なう。
- 2) プレゼンテーション後ディスカッションを行ない、教員が当該分野について補足説明及び講義を行ない、理解を深める。

【評価】

授業への主体的な参加（発言等）の程度、課題レポート等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

- 1) テキスト：キャサリン・Jハンナ他：看護情報学への招待、中山書店
※絶版になっているため、入手できなくてよい

- 2) 参考文献

日本医療情報学会誌

講義中に紹介、アドバイスする

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	4/14	課題分担の決定 情報科学の基礎 1	津本
2	4/21	情報科学の基礎 2	津本
3	4/28	看護情報学教育と専門職性	津本
4	5/12	看護情報と EBN ・看護系学会ホームページと文献検索システム ・看護情報の分析とデータマイニング	津本
5	5/19	看護情報学の成立と看護情報の特徴と分析	津本
6	5/26	病院・看護システム開発 ・システムの基本 コンピュータシステムの開発・手順	津本
7	6/2	看護データの標準化 ・看護情報の標準化例 NANDA NIC NOC OMAHA ICNP	津本
8・9		情報倫理と患者情報 ・看護情報を研究に使用する際のガイドライン ・守秘義務と患者情報の取り扱い・個人情報保護法	石垣
10		病院・看護システム開発 ・看護における情報システムの適用	岩田*
11		看護データの標準化 ・看護電子記録のための看護用語の標準化 ・標準看護用語、MEDIS 開発例と手順	石垣
12・13		看護データの標準化 ・データの集積と活用システムの構築	石垣
14		病院・看護システム開発 ・システムの基本 コンピュータシステムの開発・手順	岩田*
15		保健情報学と地域社会 ・行政における保健、医療、福祉情報システム ・介護保険とコンピュータシステム・遠隔看護とシステム	石垣
		課題レポートの提出 ・各自の分担部分を深め、考察を加えてレポートを作成する	津本

* 島根大学医学部附属病院看護部

※8 回以降の日程は学外講師の予定により決定する。

保健医療福祉政策論

単位数：2単位

小笹美子：地域・老年看護学講座 教授

岸恵美子：東邦大学看護学部 教授

牧野由美子：島根県健康福祉部 医療統括監

馬庭恭子：元 YMCA 訪問看護ステーション地域看護 CNS

1. 科目の教育方針

看護管理者、CNS や大学院修了者などの高度看護実践者には、社会のヘルスニーズに対して看護の仕事の仕組みを自ら変革し、創造していく能力、保健医療福祉等の関連サービスに携わる人々と連携・協働して活動する実践能力が求められる。さらには、問題の本質的解決のために必要な施策を提示し、制度化に繋いでいくマネジメント能力が求められる。

少子高齢化社会のヘルスニーズに対応する保健医療福祉システムとその基盤となる制度・政策の動向と課題を踏まえて、現状を分析し、改善・改革すべき問題に焦点を当て、データに基く改善・改革策を行政機関等に提示しうる基礎的能力を培う。

2. 教育目標

- 1) 少子高齢化が進行する我が国の保健医療福祉政策の動向を理解し、国民の健康の保持増進を支える政策・制度の重要性と課題について考察する。
- 2) 我が国の看護制度の歴史的変遷を理解し、国民の健康を支えるための、看護政策・制度の課題を考察する。
- 3) 高齢者ケアに関連した保健医療福祉の現場の現状を分析し、データに基づいて改善・改革を提言する経験を通して、公的機関や組織の意思決定に影響を与える戦略的アプローチの方法を習得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【進め方】

- 1) 自ら文献検討および資料収集を行い、問題意識を持って授業に臨むことを前提とする。
- 2) 人々の健康生活の維持・向上の観点から現状を分析し、意思決定者を巻き込んでシステム改善や制度改革によって問題の根本的解決を図る、戦略的アプローチを試みる。

【評価】

- ・プレゼンテーション、レポートの緻密さ・的確さ・論理性等により総合的に判断する。

4. テキスト

- 1) 井部俊子他監修『看護管理学習テキスト⑦ 看護制度・政策論』日本看護協会出版会
《参考資料》

- ・国民衛生の動向、国民の福祉と介護の動向、保険と年金の動向、医療白書、看護白書、等

5. 教育内容

※ 後期(木)18:00～19:30 および集中講義

回	月/日	内 容	講師
1	<u>9/3(土)</u> <u>9:00-</u> <u>12:15</u>	看護政策の課題と展望 (1) 我が国の保健・医療・福祉制度の変遷 ・医療保険制度、診療報酬の仕組み ・後期高齢者医療制度とその改革 ・看護の質保証の仕組みと課題	小笹
2			
3	<u>9/3(土)</u> <u>13:00-</u> <u>16:15</u>	超高齢社会であるわが国の社会政策・制度 1) 超高齢社会における社会保障のあり方と課題 ・保健医療福祉政策の歴史的変遷 ・社会保障と税の一体改革 2) 超高齢社会の保健医療福祉を支える制度 ・島根県の超高齢化の進展と保健医療政策 ・高齢者の健康生活を支える地域ネットワーク	牧野
4			
5	<u>9/17(土)</u> <u>9:00-</u> <u>12:15</u>	看護政策の課題と展望 (2) ・認知高齢者ケアの充実 ・介護保険制度とその改革 ・高齢者の健康を支える訪問看護制度・療養通所介護 ・ターミナルケアの充実	岸
6			
7	9/29(木)	住民ニーズにおける保健医療福祉政策の事例 1 発表と討議	小笹
8	10/6(木)	住民ニーズにおける保健医療福祉政策の事例 2 発表と討議	小笹
9	10/20(木)	住民ニーズにおける保健医療福祉政策の事例 3 発表と討議	小笹
10	<u>10/22(土)</u> <u>9:30-</u> <u>16:30</u>	超高齢化社会であるわが国のヘルスケアニーズと看護 * 超高齢社会の保健医療福祉の中での看護職の役割 ・病院から地域へ：総合看護・継続看護で健康生活を支える ・end of lifeを支える：訪問看護、在宅、老人保健施設/特別 養護老人ホーム・福祉施設における看護の充実 ・看護のパワーを政策に生かす	馬庭
11			
12			
13	11/17(木)	住民ニーズにおける保健医療福祉政策の事例 4 発表と討議	小笹
14	11/24(木)	住民ニーズにおける保健医療福祉政策の事例 5 発表と討議	小笹
15	12/1(木)	住民ニーズにおける保健医療福祉政策の事例 6 発表と討議	小笹
		まとめ（課題レポートの提出） 12月22日（木）〆切	

母子フィジカルアセスメント方法論

単位数：2単位

三瓶 まり：臨床看護学講座 教授
福田 誠司：臨床看護学講座 教授
並河 徹：病態病理学講座 教授
鬼形 和道：卒後臨床研修センター 教授
竹谷 健：輸血部 講師
狩野 賢二：クリニカルスキルアップセンター 講師
石川万里子：附属病院 副看護師長

1. 科目の教育方針

母子を看護の対象とするためには正常な過程にあることを診断し、そのうえで自立して看護を展開する能力が求められている。そのような意味から、フィジカルアセスメント能力は非常に重要である。本科目では、母性および小児の健康問題を理解するために必要なフィジカルアセスメントの専門的技術の方法を学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 母性の健康問題の理解に必要なフィジカルアセスメント技術の目的と方法を修得する。
- 2) 小児の健康問題の理解に必要なフィジカルアセスメント技術の目的と方法を修得する。
- 3) 生殖に関連する倫理的問題を理解し、支援できる能力を養う。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義および学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

【評価】

講義への参加状況、プレゼンテーション内容、レポートにて総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

講義の中で適宜提示、資料を配布する。

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	4/12	母子看護におけるフィジカルアセスメントの目的、意義	三瓶
2	4/19	アレルギー疾患をもつ小児のフィジカルアセスメント	竹谷
3	4/26	循環器疾患をもつ小児のフィジカルアセスメント	福田 (安田)
4	5/10	新生児疾患をもつ小児のフィジカルアセスメント	福田 (柴田)
5	5/17	血液疾患をもつ小児のフィジカルアセスメント	福田 (金井)
6	5/24	神経疾患をもつ小児のフィジカルアセスメント	福田
7	5/31	新生児疾患をもつ小児のフィジカルアセスメント	福田
8	6/7	感染症をもつ小児のフィジカルアセスメント	鬼形
9	6/14	婦人科疾患を持つ女性のフィジカルアセスメント	金崎
10	6/21	遺伝的疾患をもつ小児の診断技術（遺伝カウンセリング）	並河
11	6/28	糖尿病をもつ妊婦のフィジカルアセスメント	石川
12	7/5	超音波による診断技術	狩野
13	7/12	事例における小児のフィジカルアセスメント	三瓶
14	7/19	事例における母性フィジカルアセスメント	三瓶
15	7/26	事例における母子フィジカルアセスメント	三瓶

重症者フィジカルアセスメント方法論

単位数：2単位

橋本 龍樹：臨床看護学講座教授

森山 美香：臨床看護学講座講師

1. 科目の教育方針

重症・急性期における生体反応の病態生理を理解し、高齢者に多い疾患を含めた各種疾患における臨床的なアセスメントの方法論を学び、科学的根拠に基づく看護を行うための基礎的事項から最新の知識を学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 重症者における血糖管理と重症糖尿病患者の管理
- 2) 急性期神経疾患のアセスメント
- 3) 循環器系のアセスメント
- 4) 呼吸器系のアセスメント
- 5) 泌尿器系のアセスメント 消化器系のアセスメント
- 6) 重症精神疾患患者における管理
- 7) 皮膚疾患、全身疾患における皮膚のアセスメント
- 8) 口腔機能のアセスメントと口腔ケア
- 9) 嚥下機能のアセスメント
- 10) 運動器疾患の病態・アセスメント・治療
- 11) 消化器系のアセスメント
- 12) PEGによる高齢者の栄養管理
- 13) 高齢者における PEM のアセスメントと対策 (NST の活動を通して)
- 14) 生命の危機状態にある高齢患者の呼吸・循環管理
- 15) 手術侵襲による高齢者の生体反応と回復過程を理解する

3. 教育方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義形式を基本とする。教育内容によっては、医学部臨床系講座の先生方（ゲストスピーカー）に、問診（症状の成り立ち）、身体診察、病態解析に必要な検査手技などをわかりやすく解説していただく。

【評価】

評価は講義への参加状況とレポートなどで行う。

4. 使用教科書、参考書等

教科書、参考書等は指定せず、各教員が資料または文献を配布する。

5. 教育内容

回		内 容	講師（ゲストスピーカー）
1	4月12日	生命の危機状態にある高齢患者の呼吸・循環管理	森山
2	4月19日	重症者における血糖管理と重症糖尿病患者の管理	橋本・森山 (内分泌代謝内科・守田)
3	5月10日	急性期神経疾患のアセスメント	橋本・森山 (神経内科・小黑)
4	5月17日	循環器系のアセスメント	橋本・森山 (循環器内科・田邊)
5	5月24日	呼吸器系のアセスメント	橋本・森山 (呼吸器・臨床腫瘍学・竹山)
6	5月31日	泌尿器系のアセスメント (高齢者における尿失禁の診療を中心に)	橋本・森山 (泌尿器科・椎名)
7	6月7日	重症精神疾患患者における管理 (せん妄への対応を含む)	橋本・森山 (精神神経科・長濱)
8	6月14日	皮膚疾患、全身疾患における皮膚のアセスメント	橋本・森山 (皮膚科・森田)
9	6月21日	急性期にある高齢患者の口腔機能のアセスメントと口腔ケア	橋本・森山 (口腔外科・管野)
10	6月28日	嚥下機能のアセスメント	橋本・森山 (リハビリテーション部・蓼沼)
11	7月5日	運動器疾患（骨粗鬆症・高齢者の骨折）の病態・アセスメント・治療	橋本・森山 (整形外科・内尾)
12	7月12日	出血性潰瘍の重症患者の重症度評価、止血治療、止血治療後の観察	橋本・森山 (消化器内科・三代)
13	7月19日	PEGによる高齢者の栄養管理 (逆流性食道炎の問題を含めて)	橋本・森山 (消化器内科・川島)
14	7月26日	栄養ケア・マネジメント	橋本・森山 (臨床栄養部・平井)
15	8月2日	手術侵襲による高齢者の生体反応と回復過程	森山

講義は、原則として 火曜日 16:15～17:45 N502 演習室で行います。

第1回講義は4月12日に行います。

講義担当者の都合により、講義担当者が変更となる場合もあります。

予備日：8/9、8/23、8/30

臨床薬理・薬剤学

単位数：2単位

小林裕太：基礎看護学講座教授

直良浩司：病院薬剤部教授

1. 科目の教育方針

薬物と生体の相互作用の結果起こる現象とその機構を理解し、薬物による疾病の治療や疾病の再発予防に関する理論を学ぶ。薬理学については看護師の基礎教育で一通りの知識を持っているという前提で、研究動向を含め、がん治療や慢性疾患治療、高齢者薬物療法などのトピックスを紹介する。さらに薬物による副作用および薬剤の管理について学ぶ。

2. 教育目標

- 1) 薬物による生体制御の基礎を理解する。
- 2) 薬物による疾病の治療や再発予防に関する理論を知る。
- 3) 薬物開発、治療法開発の研究動向を知る。
- 4) 医療現場での薬剤管理や服薬支援に必要な知識を修得する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義形式で行う。

【評価】

レポートの緻密さ・的確さ・論理性等により評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

- 1) テキストは指定しない。
- 2) 参考文献等を適宜提示する。

5. 教育内容

回	月/日	時間	内 容	講師
1	11/22	12:45 ~ 14:15	臨床薬理総論：薬の作用と疾病の治療	小林
2	11/22	14:30 ~ 16:00	薬物の体内動態・治療効果と与薬トラブル	小林
3	11/29	12:45 ~ 14:15	感染症とその治療	小林
4	11/29	14:30 ~ 16:00	がんの薬物療法	小林
5	12/6	12:45 ~ 14:15	治療と患者および医療者の安全	小林
6	12/6	14:30 ~ 16:00	緩和ケアの動向	小林
7	12/13	12:45 ~ 14:15	循環器治療薬の動向	小林
8	12/13	14:30 ~ 16:00	呼吸器疾患治療薬の動向	小林
9	12/20	12:45 ~ 14:15	服薬支援と薬剤管理	直良
10	12/20	14:30 ~ 16:00	免疫関連疾患治療薬の動向	小林
11	1/10	12:45 ~ 14:15	内分泌系治療薬の動向	小林
12	1/10	14:30 ~ 16:00	精神疾患治療薬の動向	小林
13	1/17	12:45 ~ 14:15	高齢者の薬物治療	小林
14	1/17	14:30 ~ 16:00	高齢者の薬物治療各論	小林
15	1/23	12:45 ~ 14:15	新薬の開発と臨床治験	小林

高齢者看護実践論

単位数：2単位

原 祥子：地域・老年看護学講座教授

小野 光美：地域・老年看護学講座講師

泉 キヨ子：帝京科学大学医療科学部看護学科教授

1. 科目の教育方針

複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族について、専門的知識と理論に基づいて判断し、問題解決へ向けた看護援助ができる能力を開発する。また、高齢者のセルフケアを支援する看護について再考するとともに、高齢者と家族へのヘルスケア提供モデルについて探究する。

2. 教育目標

- 1) 複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族について、総合的なアセスメントに基づいて判断できる能力を養う。
- 2) 高齢者とその家族の健康レベルに応じた看護援助の実際を学ぶ。
- 3) コンフォート理論の高齢者看護実践への適用の実際と可能性について探究する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。
- 2) 関連文献をレビューしたレポートをもとにプレゼンテーションを行い、最新の研究・実践の動向を踏まえた討論を展開する。

【評価】

プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) 上田敏：ICF（国際生活機能分類）の理解と活用，きょうされん，2005.
- 2) 大川弥生：介護保険サービスとリハビリテーション－ICFに立った自立支援の理念と技法－，中央法規，2004.
- 3) キャサリン・コルカバ：コルカバ コンフォート理論，医学書院，2008.
- 4) 泉キヨ子：エビデンスに基づく転倒・転落予防，中山書店，2005.

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	高齢者特有の健康問題と生活機能障害 ・老年病の特徴 ・老年症候群	原
2		
3	国際生活機能分類（ICF）の視点に基づくアセスメントと看護 ・ICF モデルの基本的特徴、実践的意義、今後の課題 ・低運動による弊害（廃用症候群）の予防・克服の具体的な進め方 ・目標指向的アプローチ	原
4		
5		
6	高齢者/家族へのヘルスケア提供モデル：コンフォート理論 ・高齢者看護におけるケアの枠組みとコンフォートの概念 ・コンフォート理論の高齢者ヘルスケア実践への適用 ・看護師/ヘルスケア提供者のコンフォートに焦点を当てたモデルの分析 ・コンフォート理論を活用した高齢者/家族ケアの展開 （事例検討）	小野
7		
8		
9		
10	ICF の視点に基づく目標指向的アプローチの実際（事例検討）	原
11		
12	高齢者リハビリテーション看護学 ・概念と原理、新しい障害モデル ・高齢者特有のニーズの査定	泉
13		
14	高齢者の転倒予防と看護の視点 ・転倒リスクアセスメントツールの活用と転倒予防ケア	泉
15	高齢者看護の実践的課題と展望	原

高齢者看護援助論

単位数：2単位

原 祥子：地域・老年看護学講座教授
小野 光美：地域・老年看護学講座講師
吉岡佐知子：松江市立病院地域医療課長（老人看護 CNS）
島根大学医学部臨床看護教授
塩川 ゆり：訪問看護ステーションあおいそら管理者

1. 科目の教育方針

老人看護専門看護師に求められる、病院・施設における高齢者とその家族に対する卓越した看護の実践、看護職に対する教育、看護職を含むケア提供者に対する相談、ケア調整、倫理的調整の各役割機能を果たすことのできる能力を開発する。

2. 教育目標

- 1) 病院・施設において複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族について、生活環境調整・生活活動調整・家族関係の調整に関する看護援助を実践する能力を養う。
- 2) 高齢者ケアが円滑に提供されるための、ケア提供者に対する教育・相談や関係者間の調整の実際を学ぶ。
- 3) 高齢者のエンドオブライフ・ケアのあり方について探究する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

【評価】

プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) 井部俊子，大生定義監修：専門看護師の思考と実践，医学書院，2015.
- 2) 金川克子，野口美和子監修：高齢者のための高度専門看護（最新・高齢者看護プラクティス），中央法規，2005.
- 3) 中島紀恵子，石垣和子監修：高齢者の生活機能再獲得のためのケアプロトコールー連携と協働のために，日本看護協会出版会，2010.
- 4) K.K.キューブラ，P.H.ベリー，D.E.ハイドリッヒ（鳥羽研二監訳）：エンドオブライフ・ケア 終末期の臨床指針，医学書院，2004.

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	専門看護師制度設立の背景と専門看護師の要件	原
2	老人看護専門看護師の役割と機能、活動の拡大 エビデンスに基づく実践（EBP）の実行	原
3	病院・施設における CGA とチームアプローチ ・高齢者の摂食・嚥下の評価とリハビリテーション ・高齢者の frailty とサルコペニアへのアプローチ	原 (リハビリテーション部・酒井)
4		
5	病院・施設における生活環境・生活活動調整に関する実践・相談・教育 ・せん妄の予防と対応を含む	吉岡
6	病院・施設における家族関係の調整に関する実践・相談・教育	吉岡
7	高齢者看護における倫理的課題と倫理調整	吉岡
8	複雑な健康問題をもつ高齢者/家族に対する看護実践とケア調整	吉岡
9	地域連携・退院支援を通して高齢者のケアを考える ・高齢者/家族に対する調整・倫理調整を中心に	塩川
10		
11	終末期にある高齢者とその家族への看護援助（1） ・End-of-Life Care の概念、終末期ケアを導くチーム連携ケアモデル	原
12	終末期にある高齢者とその家族への看護援助(2) ・介護保険施設における End-of-Life Care の実践・相談・教育 ・高齢者の End-of-Life Care における倫理調整 ・高齢者の看取りケアモデルの探究(文献及び事例検討)	小野
13		
14		
15	高齢者看護における実践的研究の動向と課題	原

認知症看護論

単位数：2単位

原 祥子：地域・老年看護学講座教授

浦上 克哉：鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座教授

吉岡佐知子：松江市立病院地域医療課長（老人看護 CNS）

島根大学医学部臨床看護教授

1. 科目の教育方針

認知症高齢者とその家族の生活環境や生活活動の調整、家族関係の調整のための具体的援助、それらに関する看護職への教育、看護職を含むケア提供者に対する相談、保健医療福祉ニーズのケア調整、倫理的課題への調整の機能を果たすことのできる能力を開発する。

2. 教育目標

- 1) 認知症の診断（評価）と病態像及び障害像、最新の治療について理解する。
- 2) 認知症の人の障害像から生活に及ぼす影響について適切に判断できる能力を養う。
- 3) 認知症の種類、症状、経過にそった、生活環境調整・生活活動調整・家族関係の調整に関する看護援助に関する理論と実際を学ぶ。
- 4) 認知症高齢者ケアにかかわるスタッフへの教育・相談の実際を学ぶ。
- 5) 認知症高齢者とその家族に対する資源の活用の実際を学ぶ。
- 6) 認知症高齢者の人権擁護と倫理的調整の実際を学ぶ。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

【評価】プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度、課題レポート（テーマ：認知症看護をめぐる課題・背景要因・課題解決のための方略の提言）等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) 小澤勲：認知症とは何か，岩波書店，2005.
- 2) 池田学：認知症，中公新書，2010.
- 3) クリスティーン・ボーデン：私は誰になっていくの？，クリエイツかもがわ，2003.
- 4) 浦上克哉：これでわかる認知症診療（改訂第2版），南江堂，2012.
- 5) トム・キッド・ウット（高橋誠一訳）：認知症のパーソンセンタードケア，筒井書房，2005.
- 6) 中島紀恵子，他編著：新版 認知症の人々の看護，医歯薬出版，2013.
- 7) 児玉桂子，他編：痴呆性高齢者が安心できるケア環境づくり，彰国社，2003.
- 8) Jacqueline Kindell（金子芳洋訳）：認知症と食べる障害，医歯薬出版，2005.
- 9) ピッキー・デクラーク・ルビン：認知症ケアのバリデーション・テクニク，筒井書房，2009.
- 10) 日本神経学会監修：認知症疾患治療ガイドライン2010 コンパクト版2012，医学書院，2012.

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	認知症の概念と定義 認知症とともに生きる人の理解	原
2	認知症高齢者看護の専門性と役割	原
3	認知症をきたす疾患への理解	浦上
4	認知症の治療と今後の展望	浦上
5	認知症高齢者のアセスメントと看護援助 ・生活環境・生活活動の調整	原
6	・認知症高齢者に対するアクティビティケアの理念と実際 (回想法、ライフストーリー・アプローチ、リアリティ・リエンションを含む)	
7	パーソンセンタードケアの理論と実践 *講義と討論 ・「その人らしさ」の概念、理論の背景	原
8	・パーソンセンタード・アプローチの展望と評価 ・認知症ケアにおける課題：相互行為の質の改善 ・パーソンセンタードケアを実践するための組織上の課題 ・職員のケアと教育、チーム作り	
9	認知症ケアにおけるアセスメントとケアマネジメント ・認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式 ・グループホーム・在宅における認知症ケアの実際と質評価	原
10	認知症ケアと薬物療法	原
11	認知症者に対する療法プログラムやアプローチ・アクティビティの理念と実際 (回想法(ライフレビュー)、バリエーション・テクニック、園芸療法、アートセラピーなど) *療法プログラム等から1つを選択、文献(実践報告を含む)検討のうえプレゼンテーション	原
12	認知症高齢者の人権と生活を支える制度、適切な資源の活用 事例検討 *討論	原
13	認知症高齢者ケアにおける老人看護 CNS の実践・相談・教育の実際 ・生活環境と生活活動の調整	吉岡
14	・認知症高齢者の介護家族支援と家族関係の調整	
15	認知症高齢者ケアにおける倫理調整の実際 ・認知症ターミナルケアの倫理的課題を含む	吉岡

高齢者在宅ケアシステム論

単位数：2単位

原 祥子：地域・老年看護学講座教授

谷垣静子：岡山大学大学院保健学研究科教授

高山成子：前石川県立看護大学教授

三輪恭子：よどきり医療と介護のまちづくり株式会社 取締役
まちケア事業部 部長（地域看護 CNS）

1. 科目の教育方針

高齢者・在宅療養者の健康生活をサポートしているケアシステムの現状を理解し、それらを活用するための理論と実際を学ぶ。また、専門的知識と理論に基づいて高齢者のサポートシステムを組織化する方法を修得し、サポートシステムを発展させることのできる能力を開発する。

2. 教育目標

- 1) 高齢者サポートシステム及び在宅ケアシステムの現状について理解できる。
- 2) ケアマネジメント実践の基礎的知識と理論に基づいたケアプラン立案と実施・評価までの一連の実践方法を学ぶ。
- 3) 高齢者・在宅ケアにおける連携システムづくりについて考察できる。
- 4) 病院・施設と在宅をつなぐ専門看護師の機能について理解できる。
- 5) 高齢者のサポートシステムを発展させる方法について考察できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

【評価】

プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度、課題レポート等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) 宇都宮宏子，三輪恭子編：これからの退院支援・退院調整，日本看護協会出版会，2011.

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	地域ケアシステムと社会資源（概論） 身体・知的・精神の三障害とサービス体系 セルフヘルプグループ及びソーシャルサポートの理論と実際	谷垣
2	高齢者を取り巻く状況と高齢者サポートシステム わが国における地域包括ケアシステムと諸外国の状況	谷垣
3	ケアマネジメントの実践と理論 歴史的経緯と発展過程、ケアマネジメントの定義 構成要素と展開のプロセス	原
4		
5	介護保険制度とケアマネジメント 介護保険制度改革の概要 要介護認定の理論的根拠、介護ニーズの客観的評価	原
6		
7	インフォーマルサポートの種類・機能とその活用 インフォーマルサポート・ネットワークの現状と課題	原
8	高齢者・在宅ケアにおける連携とチームアプローチ 超高齢社会における地域包括ケアシステムの構築と多職種連携・協働	原
9	高齢者の健康と生活を支えるための社会資源とサポートシステム 認知症高齢者に焦点をあてて	高山
10		
11	病院・施設と在宅をつなぐ専門看護師の機能 高齢者の在宅移行および在宅療養継続におけるアプローチ 退院支援の実際、事例検討 サポートシステムの組織化とその活用のあり方 チーム医療と Interprofessional Work (IPW)	三輪
12		
13		
14		
15	高齢者のサポートシステムを発展させる方法	原

家族看護援助論

単位数：2 単位

矢田 昭子：臨床看護学講座教授

鈴木志津枝：神戸市看護大学

療養生活看護学領域教授

1. 科目の教育方針

今日、「家族看護」はこれまでにない様々な領域で専門的な援助の実践が求められるようになってきている。CNSをはじめとする大学院修了者には、高度看護実践者として、理論に基づいた専門性の高い看護を実践することによって、看護の成果を社会の人々や保健医療チームのメンバーに示し、看護の発展に寄与することが期待されている。

本科目では家族看護の実践力を高め、家族の健康問題におけるコンサルテーションの基礎的能力を習得できるよう、主たる家族看護理論から実践までの理解をねらいとする。具体的な援助方法については事例を通して学び、関連する他機関や専門職種との連携につながられる看護実践能力の習得を目指す。

2. 教育目標

- 1) 家族看護の歴史的展望に基づき、諸外国及びわが国での家族看護の発展経緯を理解できる。
- 2) 看護における家族の位置づけや家族を単位とした看護アプローチのあり方を自己の家族観をふまえて洞察し、中立的な立場での看護介入について理解できる。
- 3) 主要な家族看護の理論を学び、実践事例への応用から家族看護計画が理解できる。
- 4) 家族看護の実践力に必要な教育内容や実践を評価する手法について理解できる。
- 5) 家族看護に関わる専門職種や機関を知り、看護職に必要な連携・調整機能について理解する。
- 6) 健康問題別、発達別、終末期のアセスメントにおける家族看護の実践に必要な知識・技術が理解できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、事例検討を通して実際の家族看護に触れながら、家族看護計画の立案・実践・評価までをシミュレーションする。学生間の意見交換を通して現状の課題を取り上げ、討議により深めていく。

【評価】

授業への参加度、課題レポート等より評価を行う。

4. 使用テキスト、参考文献等

- 1) 鈴木和子,渡辺裕子：家族看護学—理論と実践 第3版, 日本看護協会出版会, 2006.
- 2) 法橋尚宏：新しい家族看護学—理論・実践・研究, メヂカルフレンド社, 2010.
- 3) 小島操子：看護における危機理論・危機介入 2 版—フィンク/コーン/アグィレラ/ムース/家族の危機モデルから学ぶ, 金芳堂, 2008.

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	10/4	家族看護の歴史的発展と経緯 諸外国とわが国との比較	矢田
2	10/11	家族の発達と周期 ライフサイクルから捉えた家族	矢田
3	10/18	家族システム理論	矢田
4	集中 講義	家族エンパワーメントモデル	鈴木
5		家族エンパワーメントモデルを活用した事例展開 終末期患者の家族への援助（高齢者の事例を用いて）	鈴木
6		Enrichment の概念の活用 終末期患者・家族間の相互性を支える援助	鈴木
7		悲嘆理論と死別後の遺族へのグリーフケア	鈴木
8	10/25	論家族の危機とストレス対処モデル	矢田
9	11/1	家族生活力量モデルの活用 （高齢者の事例を中心に）	矢田
10	11/8	渡辺式家族アセスメントモデルの活用 （高齢者の事例を中心に）	矢田
11	11/15	家族看護アセスメントモデルを活用した事例展開 ・生命の危機状態にある患者の家族 ・在宅療養への移行を支える家族支援 ・長期療養を支える家族ケア ・医療依存度の高い療養者を介護する家族への援助 ・家族の意思決定を支援する援助	矢田
12	11/22		
13	11/29		
14	12/6		
15	12/13		

※嘱託講師については集中講義を行う 日時は未定

看護理論

単位数：2単位

福間 美紀：基礎看護学講座准教授

内田 宏美：基礎看護学講座教授

津本 優子：基礎看護学講座教授

長田 京子：元島根大学医学部看護学科教授

1. 科目の教育方針

実践の科学である看護学の基礎をつくるものは理論である。看護現象を説明し理論を生成すること、理論を実践に活用してその妥当性を検証すること、この繰り返しによって看護は看護学として発展し、社会の健康ニーズに応え得る質の高い看護を展開することができる。CNSをはじめとする大学院修了者には、高度看護実践者として、理論に基づいた専門性の高い看護を実践することによって、看護の成果を社会の人々や保健医療チームのメンバーに示し、看護の発展に寄与することが期待されている。

本科目では、看護理論に関する基本的知識、および看護実践への理論の活用方法とその効果の評価方法について学習し、理論と実践の融合した質の高い看護サービスを提供するために必要な論理的思考力と実践力を高める。

2. 教育目標

- 1) 看護理論開発の歴史を概観し、これからの看護理論の発達に対する見識を深める。
- 2) 看護理論家の著書を講読し、理論の分析を行って看護理論の構造や特徴を理解する。
- 3) どのような対象者にどのような場面や状況下で看護理論を適用させるのか、事例をとおして看護理論の看護実践への活用方法を検討する。
- 4) 看護実践における理論活用の意義と理論開発の必要性を考察する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) 看護理論への理解を深めるために、講義、看護理論講読、事例演習を行う。
- 2) 理論分析は、看護哲学、広範囲理論、中範囲理論に関する看護理論の著書の中から各自が1冊を選択して講読し、レポートの作成、発表、グループ・ディスカッションを行う。
- 3) 看護理論活用の実際は、各自の専門領域に応じて関心を寄せる看護の理論を選択して看護実践に活用し、その成果について発表とディスカッションを行う。

【評価】

プレゼンテーション、レポート等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

- 1) 筒井真由美編集：看護理論家の業績と理論評価，医学書院，2015
 - 2) 正木治恵他：看護理論の活用-看護実践の問題解決のために，医歯薬出版，2012
 - 3) 筒井真優美編集：看護理論，看護理論 20 の理解と実践への応用，南江堂，2008
 - 4) 松木光子他編集：看護理論，理論と実践のリンケージ，ヌーヴェルヒロカワ，2006
- *その他の図書・文献は授業で紹介する。

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	4/12	講義： 理論の定義・意義、看護理論発展の歴史、 看護実践の基盤となる看護理論の特徴と機能の概要	福間
2	4/19	講義： 看護理論の構造および特徴 看護の主要概念（人間、健康、環境/社会、看護の目的・方法）	福間
3	4/26	看護理論の活用の実際（ステップ1） 課題の明確化	内田 福間
4	5/10	看護理論の活用の実際（ステップ1） 課題の明確化	津本 福間
5	5/17	講義：看護実践と理論活用の実際 関心のある理論家の選択	福間
6	6/7	発表・討議 理論分析1 看護理論の構造・特徴の分析・クリティーク	福間
7	6/28	理論分析2 看護理論の構造・特徴の分析・クリティーク	福間
8	7/5	理論分析3 看護理論の構造・特徴の分析・クリティーク	福間
9	8/2	理論分析4 看護理論の構造・特徴の分析・クリティーク	福間
10	8/9	看護理論の活用の実際（ステップ2） 課題解決の実際	福間
11	8/16	看護理論の活用の実際（ステップ2） 課題解決の実際	福間
12	8/23	看護理論の活用の実際（ステップ3） 課題解決の実際と今後の課題	福間
13			福間
14			福間
15		まとめ：看護理論の動向と方向性	長田

看護倫理

単位数：2単位

内田宏美：基礎看護学講座教授

小野光美：地域・老年看護学講座講師

清水哲郎：東京大学大学院人文社会系研究科特任教授

1. 科目の教育方針

看護倫理の中心課題は、現代の保健医療システムの中でケアはいかにあるべきかを探ることであり、専門職の責務として倫理的問題やジレンマを解決していくための方法を探究することである。CNSをはじめ大学院修了者には、看護実践の場で現に発生している、あるいは潜在的な倫理的問題に対して、メンバーが主体的に対峙し、問題の本質を分析し、より良い解決に向けて対策を講じることができるよう、調整や支援を行うことが期待されている。本科目では、基盤となる倫理・哲学の思想、生命倫理、医療倫理に関する基本的知識を学習して多面的なものの見方考え方を身につけること、それを基盤にして看護実践・教育・研究・管理のあらゆる領域における倫理的問題とは何かを洞察できるようになること、さらには、現実的な問題の分析と対策の検討をとおして、倫理的判断力や問題解決能力を高めることを目指す。

2. 教育目標

- 1) 倫理・哲学の思想、生命倫理、医療倫理に関する基本的知識を深める。
- 2) 看護実践における倫理の基本概念を理解する。
- 3) 看護の臨床で経験する倫理的ジレンマ・道徳的苦悩に対し、状況対応型解決法の適用を試み、その効果と課題を明らかにすることができる。
- 4) 倫理的課題に対応する基盤としての組織文化・組織風土の重要性を理解し、現実の課題に向き合うことができる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

基本テキスト、参考文献等により、課題に関する事前学習を行い、疑問や問題意識を持って授業に臨むことを前提とし、事例を題材にして全員でディスカッションを行い、テーマに対する見識を深める。

【評価】課題レポート等により総合的に評価する。

4. テキスト

- 1) サラ・フライ（片田範子訳）『看護実践の倫理』日本看護協会出版会
- 2) ドロレス・デューリー他『看護倫理1』みすず書房、2006
- 3) ジョイス E.トンプソン他『看護倫理のための意思決定の10のステップ』日本看護協会出版会、2004

【参考文献】

- 1) 清水哲郎『臨床現場に臨む哲学』勁草書房、1997
- 2) ドロレス・デューリー他『看護倫理2, 3』みすず書房、2006
- 3) ダニエルF. チャンプリス(浅野祐子訳)『ケアの向こう側』日本看護協会出版会
- 4) スザンヌ・ゴードン『困難に立ち向かう看護』エルゼピア・ジャパン、2006

5. 教育内容

※前期(木) 7・8 時限 14:30～16:00

回	月/日	内 容	講師
1	4/14	保健医療における倫理的問題と背景 ・医療化の進展による諸問題、生命の質、平等と公平 医療・ケアにおける患者・クライアントの権利 ・人間性の尊重、知る権利と自己決定権 看護の基本的責任、看護実践上の倫理的概念 ・責務・アドボカシー・協力・ケアリング、倫理指針	内田
2	4/21	看護実践における倫理的ジレンマとその本質 ・医療倫理と看護倫理、倫理的ジレンマと道徳的苦悩 看護管理・看護教育・研究における倫理 ・組織の中で構造的に生み出されるジレンマと対応 ・パターナリズムを超えて	内田
3	5/12	基礎文献購読：サラ・フライ「看護実践の倫理」 ・担当分の内容をレジュメにまとめ発表する。 ・ディスカッションにより考察を深める。	内田
4	5/19	基礎文献購読：サラ・フライ「看護実践の倫理」 ・担当分の内容をレジュメにまとめ発表する。 ・ディスカッションにより考察を深める。	内田
5	5/26	基礎文献講読：D. デューリー他「看護倫理1」 ・担当分の内容をレジュメにまとめ発表する。 ・ディスカッションにより考察を深める。	内田
6	6/2	基礎文献講読：D. デューリー他「看護倫理1」 ・担当分の内容をレジュメにまとめ発表する。 ・ディスカッションにより考察を深める。	内田
7	6/9	基礎文献講読 ：J. トンプソン「看護倫理のための意思決定の10のステップ」 ・担当分の内容をレジュメにまとめ発表する。 ・ディスカッションにより考察を深める。	内田
8	6/16	臨床看護にみられる倫理的課題への介入 ・高齢者看護における倫理と高齢者の権利擁護	小野
9	6/23	倫理的ジレンマへの対応の検討：事例検討 ：看護専門職として倫理的問題にどう向き合うか	内田・小野
10	6/30	同上	内田・小野
11	7/7	同上	内田・小野
12	7/14	同上	内田・小野
13 14 15	7/21(木) 13:30- 18:15	公開 特別講演 “臨床現場に臨む哲学” ～患者の死生に寄り添える医療者であるために～ ・インフォームド・コンセント再考：胃ろうを巡る倫理 ・「臨床倫理検討シート」の活用	清水
		課題レポート：メ切 7/28(木) テーマ：看護職者の倫理的責務	内田

コンサルテーション論

単位数：2 単位

内田 宏美：基礎看護学講座教授
宇佐美しおり：熊本大学医学部保健学科教授
長田 京子：元基礎看護学講座教授
鶴屋 邦江：川崎病院老人看護 CNS

1. 科目の教育方針

人々の健康生活を支える看護活動を効果的に展開するには、保健・医療・福祉の分野や組織の部門・部署を超えて、継続的で柔軟なケアのネットワークを構築していくことが重要となる。コンサルテーションは、ケアのネットワーク構築を推進するうえで重要な機能を果たす。CNSをはじめとする大学院修了者には、専門分野の高度な看護実践に関する相談・支援活動を展開することはもとより、ヘルスケア組織全体の看護の質向上のために、各機能間の協働と連携の調整者として、リーダーシップを発揮することが期待されている。

本科目ではコンサルテーションの理論と方法について学習し、看護職をはじめとする保健・医療・福祉領域の専門家に対する相談・支援・調整活動を行うための能力を養う。

2. 教育目標

- 1) 保健・医療・福祉領域のケア提供者の職務遂行上の問題解決過程における相談・支援活動の目的と方法について理解する。
- 2) コンサルテーションの理論を学び、その概念、モデル、タイプ、プロセス、コンサルタントの役割、および活動の方法について理解する。
- 3) 職員のメンタルヘルスに関するコンサルテーションに必要な諸理論と職場におけるストレスマネジメントの具体的方法を理解する。
- 4) 看護実践に関するコンサルテーションについて、個人、集団、組織に対するコンサルテーションの具体的方法を理解する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- 1) コンサルテーションに関する理論、知識、方法について、講義、演習、ロールプレー等をとおして理解を深める。
- 2) コンサルテーション事例について、プレゼンテーションとディスカッションによる演習を行う。

【評価】

評価は、授業への主体的参加、プレゼンテーション、レポート等により総合的に行う。

4. 使用テキスト、参考文献等（ *その他の図書・文献は授業で紹介する。）

- 1) 宇佐美しおり、野末聖香編：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会、2009.
- 2) ドナ C. アギュララ著、小松源助他訳：危機介入の理論と実際、川島書店、1997.
- 3) エドガー・H・シャイン著、金井壽宏監訳：問いかける技術、英治出版、2014.

5. 教育内容

後期木曜日 16:15~17:45

回	月/日	内 容	講師
1	10/6	コンサルテーションの概念 コンサルテーションの歴史的発展、定義、目的 コンサルティとコンサルタントの関係 コンサルテーションのプロセス、コンサルタントの役割	内田
2	集中 10/15 (土) 9:00~ 16:00	看護におけるコンサルテーションの実際 コンサルテーションのタイプとモデル	宇佐美
3		個人へのコンサルテーション1	宇佐美
4		個人へのコンサルテーション2	宇佐美
5		グループへのコンサルテーション	宇佐美
6		10/20	コンサルテーションの理論 ・文献購読：エドガー・H・シャイン「問いかける技術」
7	10/27	コンサルテーションの理論 ・文献購読：エドガー・H・シャイン「問いかける技術」	内田
8	11/10	コンサルテーション事例の検討（1）	内田
9	11/17	コンサルテーション事例の検討（2）	内田
10	11/24	コンサルテーション事例の検討（3）	内田
11	集中 11/26 (土) 13:00~ 16:00	コンサルテーションの実際 ・老人看護 CNS の活動の方法、戦略、課題	鶴屋
12			鶴屋
13	12/1	コンサルテーション展開演習 ：ストレスマネジメントに関するコンサルテーション	長田
14	12/8	コンサルテーション展開演習 ：看護職としての成長支援に関するコンサルテーション	長田
15	12/15	コンサルテーション展開演習 ：看護職としての成長支援に関するコンサルテーション	長田
		課題レポート「コンサルテーション事例の検討」 締切：2016.12.22（木）正午、提出：uchi@med.shimane-u.ac.jp	内田

看護研究方法演習

単位数：2 単位 (60 時間)

津本優子：基礎看護学講座教授
小林裕太：基礎看護学講座教授
小笹美子：地域・老年看護学講座教授
秋鹿都子：臨床看護学講座准教授

内田宏美：基礎看護学講座教授
橋本龍樹：臨床看護学講座教授
福間美紀：基礎看護学講座准教授

1. 科目の教育方針

看護実践の経験知を可視化し、看護の学問的発展を支えるのが看護研究である。緻密な看護研究により、看護実践の意味が論理的に説明され、質の高い看護実践のための新たな知見が創造され、やがて看護学としての理論的体系化に至る。看護研究を行うことは、看護専門職としての責務である。看護研究の課題は、実践・教育・管理など自己の看護活動の問題意識に根差した、具体的で現実的なものであることが重要である。

本科目では、現実的な問題意識に端を発して、その疑問や問題を研究的に解明し検証していくための科学的方法を学ぶ。CNSをはじめとする大学院修了者には、高度な看護実践者として看護の質向上に寄与することが期待されている。したがって、本科目での学習を看護学特別研究へと繋ぐことにより、看護研究を自律して実施する能力、研究の成果を看護実践に活用し、評価する能力の獲得を目指す。

2. 教育目標

- 1) 看護研究の目的と意義を理解する。学習と研究の相違、問題解決過程と研究過程の相違をふまえ、看護研究のプロセスを理解する。
- 2) 文献をクリティークして質の高い研究論文を活用する方法を理解する。
- 3) 研究デザインおよび主な研究方法の看護研究への適用について理解する。
- 4) 看護研究における倫理的配慮の重要性と具体的方法を理解する。
- 5) 量的研究のデータ分析に必要な基本的な統計解析の方法を理解する。
- 6) 質的研究のデータ分析に必要な質的帰納的アプローチの方法を理解する。
- 7) 研究計画の全体像を構造化できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】演習方式で行う。

【評価】演習でのディスカッション、発表内容、課題レポートの内容等により、総合的に判断する。

4. 基本テキスト

- (1) DFボーリット他/近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法（第2版），医学書院，2010
- (2) 石井京子，田尾清子著：ナースのための質問紙調査とデータ分析，医学書院，2002
- (3) グレグ美鈴，他著：よくわかる質的研究の進め方・まとめ方，医歯薬出版，2007

5. 教育内容

※ 前期 (木) 9・10・11・12時限 16:15～19:30

コマ	月/日	内 容	講師
1	4/14	看護学研究概説：看護学の発展と看護研究・問題解決から研究へ ・看護現象の概念化と看護研究のデザイン ・主な研究方法の特徴と看護研究への適用	津本
2		研究における文献検討の意義と活用 ・文献検索法	福間
3・4	4/21	研究における文献検討の意義と活用 ・文献クリティークの方法 ・文献の活用	福間
5・6	4/28	疫学研究総論 : 横断研究と縦断研究、コホート研究	橋本
7・8	5/12	実験研究 : プロトコールの作成方法及び結果の分析・解析の理論的方法	小林
9・10	5/19	量的研究(1) 研究デザイン：方法の特徴、限界	津本 福間
11・12	5/26	量的研究(2) データ収集：サンプリング・質問紙作成・分析準備	津本 福間
13・14	6/2	量的研究(3) データ分析①：データの要約	津本 福間
15・16	6/9	量的研究(4) データ分析②：2変量の解析	津本 福間
17・18	6/16	量的研究(5) データ分析③：多変量の解析	津本 福間
19・20	6/23	質的研究(1) 研究デザイン：方法の特徴、限界 (質的記述的研究、グラウンデッド・セオリー、エスノグラフィー等)	小笹 秋鹿
21・22	6/30	質的研究(2)：質的帰納的アプローチ ① サンプリング、データの算出	小笹 秋鹿
23・24	7/7	質的研究(3)：質的帰納的アプローチ ② データ分析 (コード化)	小笹 秋鹿
25・26	7/14	質的研究(4)：質的帰納的アプローチ ③ データ分析 (カテゴリ化)	小笹 秋鹿
27・28	7/28	質的研究(5)：質的帰納的アプローチ ④ データ表示、結果の厳密性	小笹 秋鹿
29・30	8/4	臨床看護研究の新たな展開 ：アクションリサーチの看護への貢献の可能性 看護研究における倫理的問題、人権侵害予防のための倫理的配慮 研究計画の立案と看護研究倫理審査申請への準備	内田

【参考テキスト・資料】

(1)日本看護協会：看護研究における倫理指針，2004

(2)文部科学省・厚生労働省：疫学研究における倫理指針 2005

看護学特別研究

単位数：8単位

*看護援助学コース（担当：未定）

看護実践または看護教育の分野から対人援助関係や看護技術など看護援助に関する研究課題を見出して探求し、その成果を論文にまとめて発表する。

*看護管理学コース（担当：内田宏美教授、小林裕太教授、津本優子准教授、福間美紀准教授）

自己の看護専門職としての関心、及び、特論及び演習で学んだことを基盤に、看護管理に関する研究課題を見出して研究を実施し、その結果を論文にまとめる。

*地域・在宅看護学コース（担当：小笹美子教授）

地域で生活する人々の健康と生活を支援する看護に関する研究課題を見だし、研究論文を作成する。

*母子看護学コース（担当：三瓶まり教授）

小児・母性の健全な成長・発達を支えるための看護支援の方法について分析し、看護の科学的根拠を見い出して成果を論文にまとめる。

*成人（急性・慢性）看護学コース（担当：矢田昭子教授、橋本龍樹教授）

成人期の多様な健康状態や健康問題に対応するための看護を発展させるために、研究課題に基づいて研究を行い、論文を作成する。

*高齢者看護学コース（担当：原 祥子教授）

高齢者の健康と生活を支える多様なケアサービスに関する課題を見出し、高齢者の健康生活の向上を目指した看護実践を追究し、論文を作成する。

看護学課題研究

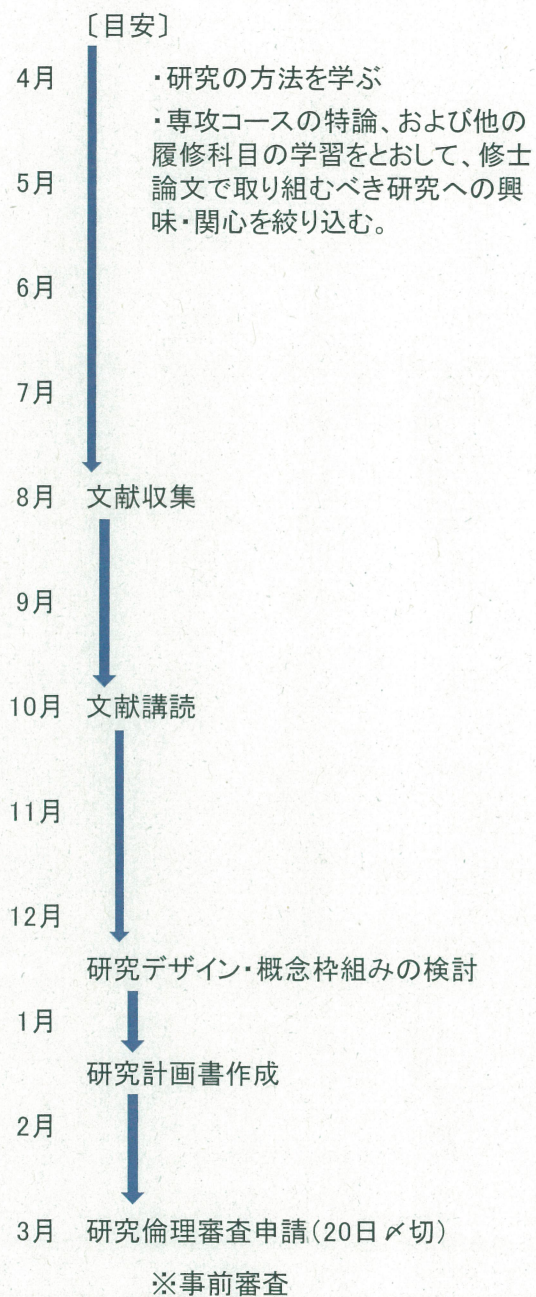
単位数：4単位

*老人看護CNSコース（担当：原 祥子教授）

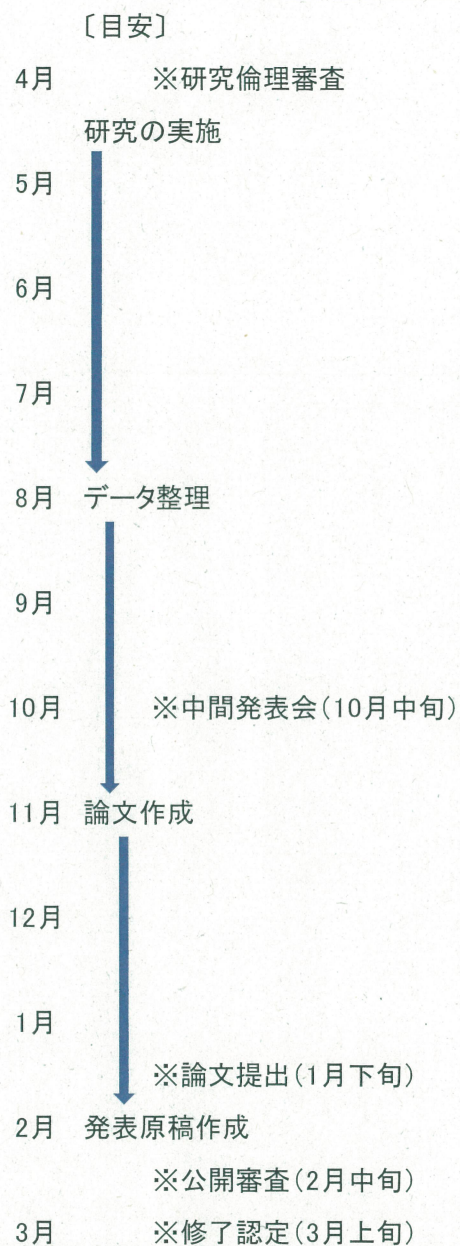
高齢者看護学実習に関連のある特定の実践的課題を追究する。高齢者看護の現場における課題を明確にしたうえで、研究計画を立案し、その計画に従って研究を実施する。課題研究の成果は、修士論文として作成する。

修士論文作成の目安と審査スケジュール

【1年目】



【2年目】



博士後期課程

1. 目的

世界に先駆けて超高齢社会を経験し、その健康課題に先進的に取り組んできた島根県においては、超高齢社会における健康課題の解明とその看護に焦点を当てた研究による看護方法の開発や知の構築を行っていく必要がある。

今後、さらに複雑さを増すことが予測される超高齢・長寿社会における健康問題に適切に対応して、人々の健康生活を支えるためには、これまで提唱されてきた加齢の諸理論や、培ってきた高齢看護学の知識・方法等をさらに発展させて、新たな知識と方法の集積による理論の体系化、すなわち「超高齢看護学」を構築することが急務である。

看護学専攻博士後期課程は、超高齢看護学の理論体系化に資する水準の独創的な看護学研究を自立して実施し、超高齢看護学の発展に寄与することを目的とする。

2. 目標

「超高齢看護学」を構築するための高水準で独創的な看護学研究を自立して実施し、看護の質向上に貢献することによって、人々が豊かな人生を享受できる超高齢社会の実現に寄与することのできる教育研究者を養成する。

3. 履修方法

専門科目として、「超高齢看護開発特講」と「安全ケアシステム開発特講」の2科目4単位に加えて、「研究方法特講」2単位、「超高齢看護学研究演習」2単位、「超高齢看護学特別研究」6単位、関連科目から1科目2単位以上の合計16単位以上を履修する。

4. 学位論文審査

論文は、「超高齢看護学」としての学術的意義、新規性、創造性、応用的価値の観点から審査することとし、口頭発表と口頭試問による公開の最終試験を実施する。

5. 修了の要件

本課程に原則として3年以上在学し、専門科目の必修科目14単位、関連科目の選択科目から2単位以上の合計16単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、博士論文審査並びに最終試験に合格することとする。

6. 学位授与

博士（看護学）

7. 学位論文の公表

博士（看護学）の学位を授与された者は、学位論文が学術論文として印刷、公開されるよう、指導教員の指導のもとに、学位を授与された日から1年以内に関連分野の学会誌に投稿することを原則とする。ただし、学位が授与される以前にすでに印刷公開している場合は、この限りではない。

8. 長期履修制度と修業年限

修業年限は3年であるが、社会人学生の就学を支援するために、島根大学学則第29条に則り、長期履修制度を導入する。

申請により当該制度の利用許可を得た学生は、修業年限の2倍の年限まで修業することができる。

9. 入学料・授業料の免除及び徴収猶予制度

入学料については、経済的理由によって納付が困難であり、かつ学業優秀であると認められる者、あるいは、特別の事情（入学前1年以内に、入学する者の学資負担者が死亡、または、入学する者もしくは学資負担者が風水害等の被害を受けた場合等）により納付が困難であると認められる者に対して、その全額または半額が免除される制度及び徴収を猶予される制度がある。

授業料については、全額または半額が免除される制度がある。

10. 奨学金制度

日本学生支援機構奨学金

学業成績、人物とも優れた学生で、経済的理由により修学困難な者には、選考のうえ奨学金が貸与される。（平成27年度貸与月額 第一種：無利子 80,000円または122,000円、第二種：有利子 50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円）

11. 学生教育研究災害傷害保険、学研災付帯賠償責任保険

教育研究活動中に万一事故等により、身体等に損害を被った場合あるいは他人に対する賠償責任が発生した場合に保険金を支払う制度である。財団法人日本国際教育支援協会が実施し、学生全員が加入する保険である。

12. 看護学専攻博士後期課程カリキュラム

区分	授業科目名	配当年次	単位数		備考
			必修	選択	
専門科目	超高齢看護開発特講	1 (前)	2		必修科目14単位修得すること
	安全ケアシステム開発特講	1 (前)	2		
	研究方法特講	1 (前)	2		
	超高齢看護学研究演習	1 (通)	2		
	超高齢看護学特別研究	1~3	6		
関連科目	地域がん治療学	1 (後)		2	選択科目から2単位以上修得すること
	がん医療社会学	1 (後)		2	
	緩和ケア学	1 (後)		2	
	環境医学Ⅰ	1 (後)		2	
	環境医学Ⅱ	1 (後)		2	
	医学・医療情報学Ⅰ	1 (後)		2	
	地域医療学Ⅰ	1 (後)		2	
	地域医療学Ⅱ	1 (後)		2	
	総合診療学Ⅰ	1 (後)		2	
	総合診療学Ⅱ	1 (後)		2	
	臨床医学と社会・環境医学への高度情報学の応用	1 (後)		2	
	知的財産と社会連携	1 (後)		2	
	機能性物質・食品の医療応用と環境影響	1 (後)		2	
修了に必要な単位数		16単位			

13. 平成28年度:専門科目担当者一覧

区分	科目名	担当教員 ○:責任者
専門科目	超高齢看護開発特講	○原・小笹・内田・津本・泉(嘱託)
	安全ケアシステム開発特講	○内田・津本・原・小笹・石垣(嘱託)
	研究方法特講	○橋本・原・内田・小林・出口(学内)・稲垣(学内)・中村(学内)
	超高齢看護学研究演習	原・内田・小林・橋本・福田・小笹・津本・福岡 多田(特任)・加藤(特任)・倉鋪(特任)・小林(特任)・塩飽(特任) 出口(学内)・稲垣(学内)・嘉数(学内)・小黑(学内)
	超高齢看護学特別研究	研究指導教員 原・内田・小林・橋本・福田 多田(特任)・加藤(特任)・倉鋪(特任)・小林(特任)・塩飽(特任) 出口(学内)・稲垣(学内)・嘉数(学内)・小黑(学内) 研究指導補助教員 小笹・津本・福岡

14. 履修モデル

- ・モデルA「認知症高齢者の看取りにおける地域包括ケアモデルの有効性に関する研究」
- ・モデルB「超高齢・過疎地域における後期高齢者のソーシャル・サポートと健康との関連に関する研究」
- ・モデルC「ICTの活用による地域包括ケアにおける安全管理システムの開発に関する研究」
- ・モデルD「多職種協働による地域包括ケアをリードする看護専門職育成モデルの開発に関する研究」

区分	科目名	配当年次	単位数	必修・選択の別	履修要件	モデルA	モデルB	モデルC	モデルD
専門科目	超高齢看護開発特講	1	2	必修	● 2単位	●	●	●	●
	安全ケアシステム開発特講	1	2	必修	● 2単位	●	●	●	●
	研究方法特講	1	2	必修	● 2単位	●	●	●	●
	超高齢看護学研究演習	1	2	必修	● 2単位	●	●	●	●
	超高齢看護学特別研究	1~3	6	必修	● 6単位	●	●	●	●
関連科目	地域がん治療学	1	2	選択	○				
	がん医療社会学	1	2	選択	○				
	緩和ケア学	1	2	選択	○				
	環境医学Ⅰ	1	2	選択	○				
	環境医学Ⅱ	1	2	選択	○				
	医学・医療情報学Ⅰ	1	2	選択	○ 2単位				○
	地域医療学Ⅰ	1	2	選択	○ 以上		○		
	地域医療学Ⅱ	1	2	選択	○				
	総合診療学Ⅰ	1	2	選択	○	○			
	総合診療学Ⅱ	1	2	選択	○				
	臨床医学と社会・環境医学への高度情報学の応用	1	2	選択	○			○	
	知的財産と社会連携	1	2	選択	○				
機能的物質・食品の医療応用と環境影響	1	2	選択	○					
合計					16単位以上	16単位	16単位	16単位	16単位

注) ●専門科目は14単位必修

○関連科目は2単位以上選択

15. 入学から修了までのスケジュール

1年次	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学 ・ 入学時オリエンテーション：教育課程、履修方法、研究の進め方、学位論文の審査等についてガイダンスを行う。 ・ 指導教員の決定 ・ 個別履修指導：指導教員の指導のもとに履修科目を選択し、履修する。
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導教員の指導のもとに、研究課題の焦点化と研究計画書の作成をすすめる。
	2～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間発表会：検討してきた研究計画について発表する。
2年次	4～5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護研究倫理委員会で研究計画書の審査を行う。 ・ 調査フィールド（病院・施設・機関等）の倫理委員会の審査を受ける。 ・ 研究計画書にそって、研究をすすめる。
	11～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間発表会：学位論文に係る研究の進捗状況について発表する。
3年次	4～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位論文の研究成果の一部を国内外の学会等で発表する。
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予備審査：学位論文の草稿等について予備審査を行う。
	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位論文審査願及び学位論文の提出
	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位論文審査（論文審査・最終試験） ・ 学位論文の可否を研究科委員会で決定する。
	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 博士後期課程修了・学位授与

16. 研究指導の標準的なスケジュール

年次	学期	大学院生の研究活動	研究指導の方法
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> 研究課題の焦点化と研究方法の検討 フィールドワーク 	<ul style="list-style-type: none"> 主研究指導教員は、入学時に大学院生の研究テーマに即して決定する。 副研究指導教員と研究指導補助教員は、大学院生及び主研究指導教員との合意により入学後に決定する。 指導教員*は、研究課題の焦点化と研究計画について指導する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> フィールドワーク 研究方法の決定 研究計画の検討、研究計画書の作成 中間発表会での研究計画発表 看護研究倫理委員会の予備点検による研究計画の審査を受ける 	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員は、研究計画の立案を指導する。 指導教員は、中間発表会における他の教員の助言や指導を踏まえて、研究計画の修正について指導する。 指導教員は、予備点検の結果に応じて、研究計画の整備と看護研究倫理委員会における審査に向けて指導する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> 看護研究倫理委員会への審査申請 看護研究倫理委員会の審査結果を踏まえた研究計画の見直しと研究計画書の修正 研究計画書にそった研究活動の展開 リサーチ・アシスタントとして積極的に本学の研究プロジェクト等に参画 	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員は、看護研究倫理委員会の審査結果に応じた研究計画の見直しと研究計画書の修正について指導する。 看護研究倫理委員会で承認された研究計画書に基づいて、指導教員は、大学院生の研究の進捗状況を確認しながら研究遂行を指導する。 指導教員は、学生が必要な研究補助を担うことができるように支援し、研究チームにおける研究遂行を指導する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> 中間発表会での研究内容発表 中間発表会における研究指導教員以外の教員の助言や指導を踏まえた研究活動の継続 	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員は、中間発表会における他の教員の助言や指導を踏まえて、これ以降の研究活動について指導する。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> 学位論文の作成 学位論文の研究成果の一部を国内外の学会で発表 予備審査の資料作成 	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員は、学位論文の作成に関して指導する。 指導教員は、学生の学会発表における抄録作成、プレゼンテーションについて指導する。 指導教員は、予備審査の資料作成に関して指導する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> 予備審査委員会による査読及び修正指導の審査 学位論文審査委員会への審査申請 学位論文の審査及び最終試験（口頭試問） 	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員は、予備審査の結果に応じた学位論文の修正について指導する。 指導教員は、大学院生が学位論文を完成させ、学位論文の審査を受けるための指導をする。
修了後 1年以内		<ul style="list-style-type: none"> 学位論文を国内外の看護系学会誌または保健・医療系学会誌等に投稿 	<ul style="list-style-type: none"> 指導教員は、学会誌に投稿する論文の作成に関して、論文が受理されるまで指導する。

* 指導教員：主研究指導教員、副研究指導教員及び研究指導補助教員

科目解説

超高齢看護開発特講

Advanced Lecture/Seminar on Development of Nursing Care in Super Aged Society

開講年次：1年次（前期） 単位数：2単位

- 原 祥子：地域・老年看護学講座教授
小笹 美子：地域・老年看護学講座教授
泉 キヨ子：嘱託講師
（帝京科学大学医療科学部看護学科教授）
内田 宏美：基礎看護学講座教授
津本 優子：基礎看護学講座教授

1. 科目の教育方針

現在、日本は世界最長寿国であるとともに、後期高齢者の急激な増加という、世界的に前例のない超高齢社会を迎えている。この超高齢社会における人々の生涯にわたる健康と尊厳ある生活・療養を支援するために、地域特性や多様なコミュニティの特性に応じた様々な健康課題を包括的に捉えたうえで、新たな看護ケア方法の開発や理論開発による健康課題解決の可能性を追究する。

2. 教育目標

- 1) 国内外の研究・実践の動向を多角的に分析し、超高齢社会における顕在的及び潜在的な健康課題を整理する。
- 2) 国内外の論文クリティークを通して、超高齢社会における人々の健康課題解決に向けた研究開発の方向性を見極め、研究課題を探索する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

最終回は、安全ケアシステム開発との合同セッションとし、研究開発による「超高齢看護学」の構築を展望する。

【評価】

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況等により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【論文クリティークのための参考文献】

- 1) 山川みやえ，牧本清子：研究手法別のチェックシートで学ぶ よくわかる看護研究論文のクリティーク，日本看護協会出版会，2014.
- 2) 牧本清子：エビデンスに基づく看護実践のためのシステムティックレビュー，日本看護協会出版会，2013.

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
1	4/11	高齢看護学で活用されている理論・アプローチの動向と限界	原 祥子
2	4/18	※学生の看護実践に基づく問題意識や以下のテーマに関する国内外の論文クリティーク（システムティックレビュー（SR）の検索データベース JBI CO _n NECT+（Aged Care 領域など）やコクラン・ライブラリーに収載されている SR のクリティークによる臨床ケアの方向性の検討を含む）を通して、超高齢社会における人々の健康課題を整理し、その解決に向けた研究開発の方向性を探究する。 ・高齢者の自我発達支援 ・高齢者のエンパワメントの概念と実践 ・高齢者の健康生活評価（包括的アセスメント） ・後期高齢者・超高齢者の QOL 評価 ・frailty の予防・介入 ・認知症ケア ・エンドオブライフケア ・高齢者の家族介護者支援 ・高齢者ケアの質評価、標準化 ・高齢者医療・看護における倫理的課題 ・ケアコーディネーションの理論・方法論の開発	原 祥子
3	4/25		
4	5/9		
5	5/16		
6	5/23		
7	5/30		
8	6/6		
9	6/13	※国内外の論文クリティークを通して、地域特性や多様なコミュニティの特性に応じた人々の健康課題を整理し、その解決に向けた研究開発の方向性を探究する。 ・高齢者の生きがいや社会参加への支援 ・高齢者のヘルスリテラシーと健康との関連 ・人々の信頼関係や地域のネットワークに基づく健康づくり活動の推進 ・高齢・過疎地域における減災 ・高齢期への備えとしての成人保健対策の強化と効果的な健康教育	小笹美子
10	6/20		
11	6/27		
12	未定	高齢者リハビリテーション看護学で活用されている理論・アプローチの動向と限界	泉キヨ子
13	未定	高齢者の転倒・骨折予防に関するプログラムやシステムの開発における現状と課題	泉キヨ子
14	7/25	※安全ケアシステム開発との合同セッション 総括：研究開発による「超高齢看護学」構築の展望	原 祥子 小笹美子 内田宏美 津本優子
15	7/25		

安全ケアシステム開発特講

Advanced Lecture/Seminar on Development of Safety Care System in Super Aged Society

開講年次：1年次（前期） 単位数：2単位

- 内田宏美：基礎看護学講座教授 津本優子：基礎看護学講座教授
石垣恭子：嘱託講師（兵庫県立大学応用情報科学研究科教授）
原 祥子：地域・老年看護学講座教授 小笹美子：地域・老年看護学講座教授

1. 科目の教育方針

超高齢社会を支える包括ケアのネットワークングにおいて、ケアの質・安全を保障する観点から、ケアサービス提供にかかる課題を探究する。超高齢社会における様々な健康課題に対して、保健医療福祉看護関連の制度政策の提案も視野に入れて、安全で質の高いケアを組織的・系統的に提供するためのケア提供方法や人材育成・活用、包括ケアにおける安全システムの開発とリーダーシップ、包括ケアにおけるケア情報システムの開発等々、ケアの質・安全と社会システムとの関係を多角的に探索し、超高齢社会を支える安全ケアシステムの開発や理論開発の方向性を見出す。

2. 教育目標

- 1) 超高齢社会のケアを包括的に支援するシステム構築の必要と意義、開発上の課題を明らかにする。
- 2) 超高齢社会のケア包括支援システム構築における、看護情報システム導入・活用の在り方、開発の方向性と課題を明らかにする。
- 3) 安全ケアシステムを基盤としたケア包括支援システム構築のあり方と課題、効果的な運用について検討する。
- 4) 上記をとおして、超高齢社会における安全ケアシステム開発上の研究課題を探索する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

最終回は、超高齢看護開発との合同セッションとし、研究開発による「超高齢看護学」の構築を展望する。

【評価】プレゼンテーション、レポートの緻密さ・的確さ・論理性等により総合的に判断。

4. テキスト（テキストは指定しない。関連図書、関連の学術論文等を適宜提示する。）

【参考図書】

- 1) 井部俊子・中西睦子監修『看護管理学習テキスト①-⑦』日本看護協会出版会
- 2) Rebecca.A.Patronis Jones 『Nursing Leadership and Management -Theories, Processes and Practice』 F.A.DAVIS COMPANY, 2007
- 3) R.Curtis 『Integrated Care: Applying Theory to Practice』
- 4) 筒井孝子『地域包括ケアシステム構築のためのマネジメント戦略—integrated careの理論とその応用』中央法規、2014
- 5) American Society for Healthcare Risk Management (ASHRM) (著), Roberta Carroll (編集) : Risk Management Handbook for Health Care Organizations, 3 Volume Set, 2010

5. 教育内容

回	月/日	内 容	講師
※ 各単元で、国内外の文献をクリークし、超高齢社会を安全管理の観点から支えるケアシステム開発上の研究課題を探求する。			
1	4/11	<ul style="list-style-type: none"> ・ integrated care（包括ケア）のネットワークにおける安全管理システムの現状 ・ 包括ケアシステムにおける安全管理システム開発上の課題 ・ ケアサービスの標準化とケアの質・安全保証 ・ 包括ケアのネットワークへの安全管理システム導入戦略 ・ 安全管理システム稼働によるケアの質評価指標の検討 ・ 包括ケアシステムにおける安全管理者育成戦略と課題 	内田
2	4/18		
3	4/25		
4	5/9		
5	5/16		
6	5/23	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネットワーク組織論、変革理論、リーダーシップ理論の包括ケアシステムへの適用と課題 ・ 包括ケアにおける看護管理者のリーダーシップ能力開発戦略と課題 	内田
7	5/30		
8	6/6	・ 療養型医療施設における看護・介護職の実践能力を向上するケア評価システムの開発	石垣
9	6/13	・ 超高齢社会における看護情報システム構築戦略と課題	津本
10	6/20	・ 地域賦活ケアにおける保健医療福祉情報管理システム構築におけるケアの質・安全保証の戦略と課題	石垣
11	6/27	<ul style="list-style-type: none"> ・ 超高齢社会における安全で質の高い看護実践を支援するための看護情報システム開発戦略と課題 ・ 看護情報システムと安全管理システムとの有機的連動によるケアの質・安全保証戦略と課題 	津本
12	7/4		
13	7/11		
14	7/25 18時	総括：超高齢社会における健康課題と健康支援システムを安全管理の観点から、保険・医療・福祉の有機的連携による安全で質の高いケア提供システム開発のための研究課題を明らかにし、超高齢看護開発特講との融合による「超高齢看護学」を展望する。	内田 津本 原 小笹
15	～ 21時		

研究方法特講

Advanced Lecture on Research Method

開講年次：1年次（前期） 単位数：2単位

- 橋本 龍樹：臨床看護学講座 教授
- 原 祥子：地域・老年看護学講座 教授
- 内田 宏美：基礎看護学講座 教授
- 小林 裕太：基礎看護学講座 教授
- 出口 顯：法文学部社会文化学科 教授
- 稲垣 卓司：教育学部心理・発達臨床講座 教授
- 中村 守彦：産学連携センター 教授

1. 科目の教育方針

博士前期課程で学習した研究方法を踏まえたうえで、博士後期課程において超高齢看護学特別研究を行うために必要な研究アプローチについて、看護学に限らず、文化人類学・医学・生物学などで用いられる研究方法を幅広く学習する。また、英語の論文を作成するために必要な基本的ルールと技術を学ぶ。

2. 教育目標

講義では、質的研究である Grounded theory、Ethnography Research、現象学、解釈学を取り上げ、自らの研究領域の研究の概観を探求する。また、主に量的な研究手法をとる医学的研究方法(精神・心理学、生化学、形態学、細胞生物学、分子生物学、生理学、薬理学)や、アクションリサーチについても解説する。本科目を修得することで、学生の研究に医学・社会学的な視点を入れることができ、学際的な研究を進めることができるようになる。併せて英語論文を読む能力と作成する方法を修得する。

3. 教育方法、進め方、評価等

講義形式を基本とする。教育内容によっては、実際の学術論文の読解など演習的な要素を含む。評価はレポートなどで行う。

4. 使用教科書、参考書等

教科書は指定せず、各教員が資料または文献を配布する。

【参考図書】

- 1) The practice of nursing research : appraisal, synthesis, and generation of evidence
Susan K. Grove, Nancy Burns, Jennifer Gray, Elsevier/Saunders, c2013, 7th ed
- 2) Nursing research : generating and assessing evidence for nursing practice
Denise F. Polit, Cheryl Tatano Beck, Wolters Kluwer Health/Lippincott Williams & Wilkins, c2012 9th ed

5. 教育内容

回	月日 (時限)	内 容	講師
1	5月13日	看護学研究方法の概説 ・看護学研究における研究倫理	内田
2	16:15-19:30	看護学研究におけるアクションリサーチの意義	内田
3	5月20日 14:30-16:00	精神・心理学的アプローチの特徴と進め方	稲垣
4	5月27日 14:30-16:00	精神・心理的発達のアセスメントツール開発方法の概説	稲垣
5	6月3日	現象学・解釈学的アプローチの概要と特徴	原
6	16:15-19:30	グラウンデッドセオリーの概要と特徴	原
7	6月10日 18:00-19:30	看護学研究における知的財産と利益相反	中村
8	6月17日 18:00-19:30	形態学及び細胞生物学的研究方法 －電子顕微鏡観察法及び免疫組織学的研究法－	橋本
9	6月24日 18:00-19:30	分子生物学的研究方法 －医学的進歩における最新の分子生物学的アプローチ－	橋本
10	7月1日 18:00-19:30	生理学的研究方法 －最新の医学・生理学の知見と研究方法－国際学会におけるプレゼンテーション(Oral/Poster)法	小林
11	7月8日 18:00-19:30	国際学会におけるプレゼンテーション(Oral/Poster)法	原
12	7月15日 18:00-19:30	英語論文の読解法と作成法	橋本
13	7月22日 18:00-19:30	薬理学的研究方法の概説英語論文の読解法と作成法	小林
14	7月29日 (未定)	古典的エスノグラフィー、批判的エスノグラフィーの特徴と進め方	出口
15	松江キャンパス	ポストモダン・ポスト構造主義のエスノグラフィーの特徴と進め方	出口
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義は、原則として 金曜日 18:00～19:30 演習室で行います。 ・ 7月29日の14回、15回は松江キャンパスで行います。時間は後日お知らせします。 ・ 講義担当者の都合により、講義担当者が変更となる場合もあります。 ・ 予備日：8/5 			

超高齢看護学研究演習

Research Seminar on Nursing in Super Aged Society

開講年次：1年次（通年） 単位数：2単位

原 祥子：地域・老年看護学講座教授	内田宏美：基礎看護学講座教授
小笹美子：地域・老年看護学講座教授	福田誠司：臨床看護学講座教授
橋本龍樹：臨床看護学講座教授	小林裕太：基礎看護学講座教授
出口 顯：法文学部社会文化学科教授	稲垣卓司：教育学部心理・発達臨床講座教授
多田敏子：特任教授	加藤基子：特任教授
倉鋪桂子：特任教授	小林祥泰：特任教授（前島根大学学長）
塩飽邦憲：特任教授（前環境予防医学教授）	津本優子：基礎看護学講座教授
福岡美紀：基礎看護学講座准教授	嘉数直樹：環境予防医学准教授
小黒浩明：医学部附属病院神経内科講師	

1. 科目の教育方針

「超高齢看護学」は、これまで培ってきた高齢看護学や健康長寿を支援するヘルスプロモーションの専門的取り組み等による知見を基盤として、新たに構築しようとする専門分野である。そのため、多角的な文献の分析はもとより、人々の生活の場で生成される健康課題の中から、超高齢看護学が取り組むべき研究課題を予見していくことが重要となる。したがって、本演習では高齢者へのケアを実践している場でのフィールドワークを重視した内容とする。また、国際的視野の涵養とともに、課題の国際的な意義を検討するために、島根大学協定校での研修等を組み込む。

以上の方針に基づき、自己の研究的関心に即した多様なフィールドワークと文献の多角的分析をとおして、人々の生活の場で生成する健康課題との関連から自己の研究課題に取り組むことの意義を明確にし、超高齢社会における様々な健康課題の解決に貢献し得る、新たな看護ケア方法や看護実践モデル・理論の開発並びに健康長寿を支える新たなケアシステムの開発を目指した研究アプローチを追究する。

2. 教育目標

- 1) 参加型看護研究及び行動モデルとその適用について理解できる。
- 2) フィールドワークと文献の多角的分析をとおして、人々の生活の場で生成する健康課題を確認し、超高齢看護にかかる健康課題を明確にすることができる。
- 3) フィールドワークの成果とプロセスをまとめて、適切に発表できる。
- 4) 超高齢看護にかかる健康課題と自己の研究的関心を融合させ、超高齢看護学の構築に寄与し得る研究課題を焦点化することができる。
- 5) 自己の研究課題に対応した研究デザインを定め、適切な倫理的配慮のうえで研究を遂行するための方法、分析方法を探索し、論理的一貫性のある研究計画を検討できる。

3. 教育の方法、進め方、評価等

- 1) 2単位 60時間の通年科目として、演習とフィールドワークにより展開する。
- 2) フィールドワークを経て研究計画の立案に至るプロセスを順当に迎えるよう、以下の流れで行う。
 - (1) 前半の約 1/3：フィールドワークを効果的に実施するための知識の習得と準備
 - (2) 中盤の約 1/3：フィールドワーク・まとめ
 - (3) 後半の約 1/3：博士論文で取り組む研究課題の明確化と研究計画の検討
- 3) フィールドワークの進め方
 - ・フィールドワークは島根大学協定校とその所在地域及び島根大学医学部が研究フィールドとしている医学部附属病院、大田総合医育成センターや自治体・関係機関を中心に実施する。
 - ・フィールドは学生が自己の研究的関心に即して選定し、そのフィールドと関係の深い教員の指導・支援の下でフィールドワークを実施する。
 - ・準備したフィールド以外の場を学生自身が開拓して実施する場合は、指導教員（主研究指導教員・副研究指導教員・研究指導補助教員）が指導・支援を担当する。
- 4) フィールドワークの取り組み状況、プレゼンテーションの内容、討論への参加状況等により主研究指導教員が総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) プラニー リィアムプットーン編（木原雅子，木原正弘訳）：現代の医学的研究方法－質的・量的方法、ミックスメソッド、EBP－，メディカル・サイエンス・インターナショナル，2012.
- 2) John W. Creswell（操華子・森岡崇訳）：研究デザイン－質的・量的・そしてミックス法，日本看護協会出版会，2007.
- 3) 安西祐一郎：問題解決の心理学，中央公論社，東京，1985.
- 4) Tosteson DC：New pathway in general medical education. *New Eng J Med* 322: 234-238, 1990.
- 5) 佐藤隆博：構造学習法の入門，明治図書，東京，1996.
- 6) 塩飽邦憲，他：概念地図を用いた問題解決能力の教育評価，*医学教育* 34: 385-390, 2003.
- 7) Sundquist J, et al.: Neighborhood linking social capital as a predictor of psychiatric medication prescription in the elderly: a Swedish national cohort study. *Journal of Psychiatric Research* 55: 44-51, 2014.

5. 教育内容

回	月/日 (時限)	内 容	担当
1	4/15 (9・10)	ガイダンス 学生の看護実践からの課題候補の抽出	原 祥子
2	4/15 (11・12)	参加型看護研究 Participatory nursing research の意義	内田宏美
3 4	5/20 (1・2) (3・4)	課題解決型研究の基礎的な知識と手法の理解と課題の明確化 ・問題解決技法 Problem-solving method ・概念地図法 Concept mapping method	塩飽邦憲
5	5/20 (5・6)	健康信念モデル Health Belief Model などの行動モデルの超 高齢看護学における適用可能性	小笹美子 塩飽邦憲
6 7 8	5 月	フィールドワークの準備 ・国内外のフィールドワークの場所と方法の決定 ・活動計画の立案：目標の設定、具体的方法とスケジュール、 活動計画の倫理性の検討、利用可能な資源（システム・人 材を含む）等の検討	科目担当 全教員
9 10 11 12 13 14 15 16	6 月 7 月 8 月	フィールドワークの実施 [対応教員] ・協定校での研修：ルンド大学（スウェーデン）[小林 ^裕 ・塩 飽] ・医学部附属病院及び関連病院 [福田・小黒] ・大田総合医育成センター [橋本] ・大田市立病院包括ケア病棟 [嘉数] ・老人看護 CNS が活動する松江市立病院、松江赤十字病院等 [原] ・島根県内の自治体 [小笹] ・島根大学疾病予知予防プロジェクト [福間] ・島根まめネット [津本] ・島根大学研究機構戦略的研究推進センター『萌芽研究部門』 プロジェクト（工・看護・医・福祉の異分野融合研究）[原] ・島根県看護協会医療安全ネットワークを活用したアクシ ョンリサーチ [内田・津本] ・その他、適宜 [稲垣・出口・多田・加藤・倉鋪・小林 ^祥]	科目担当 全教員

17 18	<u>9/16</u> (金) <u>13:00</u> ~ <u>18:00</u>	フィールドワーク型研究活動の成果発表	科目担当 全教員
19 20	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の研究課題の明確化 ・各種モデルを用いて設定した課題に即した仮説設定 	※指導教員
21 22	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究課題に関する研究デザインの検討 ・研究方法の検討 	※指導教員
23 24 25 26	12月 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・データ分析方法の探索 ・研究倫理の検討 	※指導教員
27 28	2月	研究計画全体の構造化	※指導教員
29 30	<u>3/10</u> (金) <u>13:00</u> ~ <u>18:00</u>	研究計画の発表	科目担当 全教員

※指導教員の専門性、支援可能な分野、方法等についての詳細は、『超高齢看護学特別研究』のシラバスに記載している「5. 研究指導教員と指導の概要」を参照のこと。

超高齢看護学特別研究
Research on Nursing in Super Aged Society

開講年次：1～3年次（通年） 単位数：6単位

原 祥子：地域・老年看護学講座教授	内田宏美：基礎看護学講座教授
小笹美子：地域・老年看護学講座教授	福田誠司：臨床看護学講座教授
橋本龍樹：臨床看護学講座教授	小林裕太：基礎看護学講座教授
出口 顯：法文学部社会文化学科教授	稲垣卓司：教育学部心理・発達臨床講座教授
多田敏子：特任教授	加藤基子：特任教授
倉鋪桂子：特任教授	小林祥泰：特任教授（前島根大学学長）
塩飽邦憲：特任教授（前環境予防医学教授）	津本優子：基礎看護学講座准教授
福岡美紀：基礎看護学講座准教授	嘉数直樹：環境予防医学准教授
小黑浩明：医学部附属病院神経内科講師	

1. 科目の教育方針

超高齢社会における看護の質の向上並びに新たなケアシステムの開発を目指した研究活動を展開し、博士論文を作成する。

2. 教育目標

- 1) 特講・超高齢看護学研究演習の進行及び成果と連結させながら、超高齢社会における人々の健康課題解決に有用な研究計画を立案する。
- 2) 研究計画に沿って研究活動を展開できる。
- 3) 分析結果の妥当性を検証し、博士論文を作成する。

3. 教育の方法、進め方、評価等

【方法と進め方】

- ・研究指導教員及び研究指導補助教員の多重支援体制をとり、その指導の下に研究を進める。
- ・多重支援体制は、主研究指導教員と副研究指導教員及び研究指導教員の専門分野や専門領域を補完する研究指導補助教員の3人体制とする。

目安	内 容
1年次	・研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。
2年次	・研究計画に沿って、研究フィールド・協力者への適切な交渉と倫理的な手続きを行い、研究活動を展開する。
3年次	・収集したデータの分析を行い、結果の妥当性を検証したうえで、博士論文を作成する。

【評価】

研究プロセスへの取り組み状況、作成した研究計画書・論文により総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

【参考文献】

- 1) APA (江藤裕之他訳) : APA 論文作成マニュアル, 医学書院, 2004.

5. 研究指導教員と指導の概要

教員	指導の概要
原 祥子	認知症や運動器疾患など高齢者に多い疾病や加齢による様々な障がいに関わる専門的な看護を発展させるための新規性のある研究課題を選定し、関連する医・工分野と連携・融合したこれまでの研究を基に、新たな研究方法論へのチャレンジを検討しながら、目的に即した適切な研究方法を選択・工夫し、先進的な看護学を拓く論文を作成できるよう指導する。
内田宏美	超高齢社会における保健医療・介護の質と安全の向上に資するシステム開発や人材育成システムの開発に関連する研究課題を多面的に探索し、これまで研究を行ってきた社会学や経営学などの関連分野の知見と高齢看護学の融合による研究方法を探索・選択・応用して、目的に即した適切な研究方法を選択し、結果の妥当性を確保した論文を作成できるよう指導する。
小笹美子	人々の生活や環境を包括的に捉え、中山間地の特性に応じた健康生活の支援方法を開発するための研究課題と、コミュニティが弱体化している超高齢地域における災害看護の課題に対して、行政機関や医療機関との連携と協働による研究方法を選択し、目的に即した研究方法の検討、データ収集、分析、論文作成ができるよう指導する。
福田誠司	高齢期の生活に多大な影響を及ぼす健康問題の一つである白血病を含む血液疾患と先天性代謝異常の専門家として、分子生物学分野における基礎医学的研究成果と豊富な臨床経験を基に、新規性のある研究課題を選定し、臨床医学的手法と基礎医学的手法を融合させた研究方法を選択・工夫し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。
橋本龍樹	地域の実情に応じた、科学的根拠に基づく健康指導・健康管理の方法の開発や効果の検証をするための研究課題を選定し、動物実験による発生工学的的手法や分子生物学解析、生化学データの解析や病理学的解析等の医学的研究方法を検討しながら、目的に即した研究方法を選択・工夫し、多角的な視点からデータ収集・解析を行い、論文作成の指導を行う。

小林裕太	超高齢社会における人々の健康課題を環境との関連から捉え、健康を支援する環境づくりや健康長寿に寄与し得る研究課題について生理学的研究方法や薬理学的研究方法を選択し、精度の高いデータ収集・解析、論文作成の指導を行う。
出口 顯	超高齢社会における人々の健康課題や健康長寿を支える先端医療をめぐる文化的対応の中に研究課題を求め、生命倫理に関する諸問題を文化人類学の切り口で分析した研究の実績を生かし、適切と判断されるテーマについて、エスノグラフィーを行ううえでの倫理と計画的なエスノグラフィー研究を行うための検討、研究計画書の作成、精度の高いデータ収集と分析、論文作成ができるよう指導する。
稲垣卓司	超高齢社会が直面している人間関係の希薄によって発生するライフステージに応じた精神・心理的課題の中から、児童から高齢者にわたる精神科医としての診療・研究を基に、支援方法を開発するための研究課題を選定し、精神医学的方法論も検討しながら目的に即した精度の高い研究方法を選択し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。
多田敏子	高齢者のストレングスの概念を取り入れた生活習慣病予防や介護予防、高齢者の就業・社会交流と QOL、在宅高齢者のサポート授受、介護家族の QOL、地域の特性を捉えた共助力育成や被災者の生活支援など、超高齢期の健康生活を見据えた研究課題に対して、公衆衛生学との連携と協働による研究方法を選択し、結果の妥当性を確保した論文を作成できるよう指導する。
加藤基子	在宅や介護施設で療養する脳血管障害者や要介護高齢者及びその介護者の健康問題の査定や支援に関わる専門的な看護の発展に資する研究課題、超高齢社会における地域包括ケアの担い手となる看護系大学生の看護実践能力育成のための教育方法の開発に資する研究課題に対して、これまでの研究成果を基に、データ収集・解析・論文作成の指導を行う。
倉鋪桂子	高齢期の健康生活に大きな影響を及ぼすがん・脳血管疾患・脊髄損傷の高齢者及び家族への看護、東・東南アジアの高齢者施設における看護及び介護職員のケア認識の国際比較等の研究課題について、目的に即した精度の高い研究方法を選択し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。
小林祥泰	超高齢社会における主要な健康問題である脳卒中や認知症、難病等の患者とその家族に対する看護、及び、疾病予防に関連した研究課題について、脳卒中の専門医としての医学的な専門知識を基に、新規性のある研究課題を選定し、頭部の画像診断を活用した臨床医学手法と脳血流量の測定を含む生理学的検査を用いた基礎医学的手法を融合させた研究方法を選択・工夫し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。

塩飽邦憲	超高齢社会における健康問題の中核をなす肥満、高脂血症、高血圧等の生活習慣病を予防し、人々が健康に老いるために、医療・保健行政・福祉のネットワークによる地域住民主体の健康作りの支援に関わる看護の発展に資する研究課題に対して、これまでの研究成果、および、フィールドワークの成果を基に、主に、疫学的手法を用いたデータの収集・解析・論文作成の指導を行う。
津本優子	地域包括ケア等のネットワークにおける看護情報システムの開発や情報リテラシーを高めるための教育システムの開発に関する研究課題及び安全な健康長寿社会の実現に寄与する観点からの研究課題に対して、疫学統計法・情報学の知見を活用して、データ収集・解析・論文作成の指導を行う。
福間美紀	中山間地における要支援高齢者や虚弱高齢者の支援、疾病予知予防の観点からの健康支援システムの開発に関する研究課題に対して、地域の医療及び保健機関と連携して行ってきた研究を踏まえ、主に疫学的方法やアクションリサーチを用いて、データ収集・解析・論文作成の指導を行う。
嘉数直樹	超高齢社会における人々の健康課題を環境との関連から捉え、科学的根拠に基づく健康指導・健康管理の方法の開発や効果の検証を行うための研究課題を選定し、動物実験による遺伝学的手法や分子生物学解析等の医学的研究方法を検討しながら、目的に即した研究方法を選択・工夫し、多角的な視点からデータ収集・解析を行い、論文作成の指導を行う。
小黒浩明	超高齢社会における主要な健康問題である脳卒中、認知症、パーキンソン病等に関連した研究課題について、脳神経系の加齢性変化を踏まえた老年医学の観点からの検討を加えるとともに、臨床医学や医工連携による研究方法を探索して目的に即した適切な研究方法を選択し、データ収集・解析、論文作成の指導を行う。

地域がん治療学

Local cancer therapeutics

単位数：2単位

- 磯部 威 教授：呼吸器・臨床腫瘍学 並河 徹 教授：病態病理学
木下芳一 教授：内科学第二 田島義証 教授：消化器・総合外科学
齊藤洋司 教授：麻酔科学 鈴宮淳司 教授：腫瘍センター/腫瘍・血液内科
磯村 実 講師：病理病態学

1. 科目の教育方針

地域がん治療学においては、地域に多い高齢者のがん診療に精通し、地域連携を推進し、地域貢献のマインドを有する全人的ながん診療の専門家を育成する。がんの診療の基本であるがんの診断、機能評価、患者コミュニケーション、治療適応の判断、緩和ケア、包括的な患者マネジメントについて学び、切れ目のないがん医療を医師、看護師、薬剤師、メディカルソーシャルワーカーなど多職種によるチームオンコロジーの構築と展開について習得することを目標とする。また、プログラムはがん治療認定医機構ならびに日本臨床腫瘍学会のカリキュラムに準じて横断的、段階的に作成されており、本コースを履修することでがん治療に関する認定医、専門医などの資格試験に求められる知識を確保することが可能となる。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) がん診療の実践に必要な臨床的知識を獲得する。
- 2) がん診療において必要とされる包括的なマネジメントについて理解する。
- 3) がん治療認定医機構の認定医ならびに日本臨床腫瘍学会認定のがん薬物療法専門医資格試験の受験に必要なレベルに到達する。
- 4) 地域がん診療に必要な地域医療学、病診連携について学ぶ

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) がんに関する基礎医学的知見を説明できる。
- 2) がんの心理社会的側面・倫理的側面を説明できる。
- 3) がんの治療に関する基本原理を理解し、説明できる。
- 4) 地域がん診療に必要な地域医療学、病診連携が説明できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

4. 成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

【参考図書】

- 1) 日本臨床腫瘍学会編集による「新臨床腫瘍学 改訂第3版」、南江堂、2012.
- 2) 佐藤隆美：What's New in Oncology がん治療エッセンシャルガイド改訂第2版、南山堂、2012.
- 3) 国立がん研究センター内科レジデント編：がん診療レジデントマニュアル第6版、医学書院、2013.

※他、適宜文献、資料などを配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	山陰地区のがん医療の現状と地域がん対策	磯部 威
2	病診連携と ICT	磯部 威
3	病理学、臨床検査医学、分子生物学	並河 徹
4	家族性腫瘍、遺伝子診断	磯村 実
5	消化器がん検診と診断法	木下芳一
6	高齢者の消化器がん	木下芳一
7	消化器がんの手術適応	田島義証
8	地域におけるがん薬物療法（1）外来化学療法	鈴宮淳司
9	地域におけるがん薬物療法（2）地域連携パス	鈴宮淳司
10	副作用対策（1）血液毒性	磯部 威
11	副作用対策（2）非血液毒性	磯部 威
12	終末期ケア（1）疼痛管理	齊藤洋司
13	終末期ケア（2）コミュニケーションスキル	齊藤洋司
14	演習（模擬試験）	磯部 威
15	総括	磯部 威

がん医療社会学

Cancer medical sociology

単位数：2単位

- | | |
|--------------------|----------------|
| ○磯部 威 教授：呼吸器・臨床腫瘍学 | 木下芳一 教授：内科学第二 |
| 椎名浩昭 教授：泌尿器科学 | 猪俣泰典 教授：放射線腫瘍学 |
| 関根浄治 教授：歯科口腔外科学 | 齋藤洋司 教授：麻酔科学 |
| 熊倉俊一 教授：地域医療教育学 | |

1. 科目の教育方針

がん医療社会学においては、地域に多い高齢者や合併症を有する患者のがん治療学として、最適ながん医療が提供できる医療従事者を育成する。がん患者がその居住する地域にかかわらず、科学的知見に基づく適切ながん医療を受けることができるようにすること、がん患者が置かれている状況に応じ、本人の意向を十分尊重して治療方法等が選択されるという、がん対策基本法の基本理念を理解し、患者のQOL（生活の質）や副作用対策についての臨床研究、医療費に関するがん医療社会学、地域での終末期医療や緩和医療学に関して学ぶ。がん診療における「対話」の重要性を理解し、地域医療においての多職種によるチーム医療の重要性と実際を学ぶ。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

地域に多いunfit populationと呼ばれる、高齢者や合併症を有するがん患者に対して、診断、病状説明、最適な治療について対話ができる医療従事者を育成することを目標とする。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) がん患者のQOL(生活の質)について理解する。
- 2) 各臓器別のがん腫について診断、治療戦略を学ぶ。
- 3) 高齢者や合併症を有するがん患者への対応を学ぶ。
- 4) がん診療におけるチーム医療について学ぶ。
- 5) がん診療における対話の重要性を理解する。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

4. 成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

※適宜文献、資料などを配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	がん医療における対話の重要性	礒部 威
2	地域がん医療と地域医療医の育成	熊倉俊一
3	I C Tを用いた緩和ケア研修	齊藤洋司
4	放射線治療の適応	猪俣泰典
5	口腔がんと口腔ケア	関根浄治
6	口腔がんの現状と地域連携	関根浄治
7	泌尿器がんの現状と地域連携	椎名浩昭
8	消化器がんの現状と地域連携	木下芳一
9	Q O L（生活の質）評価	礒部 威
1 0	地域がん医療とチーム医療	礒部 威
1 1	地域がん医療における看護師の役割	礒部 威
1 2	地域がん医療における薬剤師の役割	礒部 威
1 3	I C Tを用いた地域がんチーム医療	礒部 威
1 4	演習（模擬試験）	礒部 威
1 5	総括	礒部 威

緩和ケア学
Palliative Care

単位数：2単位

- 齊藤洋司 教授：麻酔科学
堀口 淳 教授：精神医学
猪俣泰典 教授：放射線腫瘍学

1. 科目の教育方針

生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族を正しく理解し、早期より痛みや、身体的、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を包括的に評価し、アプローチするための理論と方法について学習する。

がんがもたらす身体症状の病態・発現メカニズムを理解し、薬物的・非薬物的アプローチを適切に活用しながら、症状を緩和するケアを提供する能力を高める。

精神的苦悩のアセスメントと介入方法、コミュニケーション方法を学び、精神的苦悩を緩和するための技法を学ぶ。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) がん医療における緩和ケアの意義、役割を理解する。
- 2) 全人的痛みの評価、緩和を学ぶ。
- 3) がんの痛みの特徴と治療を学ぶ。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 緩和ケアの意義を説明できる。
- 2) 早期からの緩和ケアを行うことができる。
- 3) 全人的な痛みを4側面から評価できる。
- 4) がんの痛みの機序を説明できる。
- 5) 非がん患者の緩和ケアの適応について説明できる。
- 6) 精神的痛みの特徴と緩和について説明できる。
- 7) スピリチュアルな痛みの特徴と緩和について説明できる。
- 8) 緩和的放射線治療の特徴について説明できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

4. 成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) 日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン委員会編集：がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014年版、金原出版、2014.
- 2) Geoffrey Hanks, Nathan I. Cherny : Oxford Textbook of Palliative Medicine FOURTH EDITION 2011.

※他、適宜文献、資料などを配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担当
1	がんの痛みの特徴と機序	齊藤洋司
2	神経障害性痛の病態生理	齊藤洋司
3	内臓痛の特徴と機序	齊藤洋司
4	オピオイドの作用機序	齊藤洋司
5	呼吸困難とオピオイド	齊藤洋司
6	全人的痛みと緩和ケア	齊藤洋司
7	主な身体的苦痛と緩和ケア	齊藤洋司
8	がん性痛の薬物療法	齊藤洋司
9	がん性痛の神経ブロック療法	齊藤洋司
10	緩和ケアと多職種協働	齊藤洋司
11	地域連携と療養の場	齊藤洋司
12	がん患者の不安・抑うつ	堀口 淳
13	がん医療におけるコミュニケーション	堀口 淳
14	緩和ケアにおいて放射線治療の果たす役割	猪俣泰典
15	緩和ケアにおける放射線治療の実際	猪俣泰典

環境医学 I

Environmental Medicine I

単位数：2 単位

○神田秀幸 教授：環境保健医学

1. 科目の教育方針

主体と環境との相互作用という観点から、様々な健康問題、疾病の原因究明とその予防に取り組む研究について学習する。研究の方法は「人間レベル」を中心に、生活環境や社会文化環境を含め、人の取り巻く環境と医学医療との関連を検討する。様々な環境で起こる問題を解決するためには、歴史的背景を学習し、そこから得られた技術や経験を理解するとともに、社会集団として国際的あるいは社会的なルール・制度・仕組みを把握することも重要である。問題解決とリスク低減のために、マクロ的視野および環境共生の枠組みに立った展開ができることを学習の狙いとする。環境医学 I では総論的な内容を主とし、概念や仕組み、社会制度等の理解を重視する。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 環境と健康の関連性からとらえる研究テーマを開発する。
- 2) 生活習慣・生活環境の健康への影響を評価する方法論を理解する。
- 3) 労働環境の実際的応用研究を理解する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 疫学研究について説明できる。
- 2) 生活環境と健康リスクについて説明できる。
- 3) 働くことと健康について理解できる。

3. 教育の方法、進め方

担当教員による講義を主としながらも、発言や思考時間を設けた双方向型の授業展開を行う。また、テーマによっては、学生によるプレゼンテーションやグループ討論を行い、学生自身が主体的に考える機会を設け、問題解決型思考を養う学習を行う。

4. 成績評価の方法

学生によるプレゼンテーションの内容や表現、グループ討論への取り組み状況、課題レポート等を用いて、総合的に行動目標の達成度を評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) 厚生労働統計協会編：国民衛生の動向、厚生労働統計協会、2014/2015
 - 2) JM Last 編：疫学辞典、日本公衆衛生協会、2000.
 - 3) KJ Rothman: Modern Epidemiology third Edition, Lippincott Williams&Wilkins, 2008.
 - 4) B.ラマツターニ著、松藤元訳：働く人々の病気、北海道大学出版会、1980.
 - 5) 和田攻監修：産業保健マニュアル（第6版）、南山堂 2013.
- ※他、適宜文献、資料などを配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	疫学 総論	神田秀幸
2	疫学方法論（1） 記述疫学	神田秀幸
3	疫学方法論（2） 分析疫学（症例対照研究）	神田秀幸
4	疫学方法論（3） 分析疫学（コホート研究）	神田秀幸
5	疫学方法論（4） 介入研究	神田秀幸
6	疫学方法論（5） スクリーニング	神田秀幸
7	疫学方法論（6） 臨床疫学	神田秀幸
8	生活環境と健康（1） 空気・水・騒音・気圧と健康	神田秀幸
9	生活環境と健康（2） 放射線と健康	神田秀幸
10	文化環境と健康	神田秀幸
11	社会環境と健康（1） 社会制度における保健医療	神田秀幸
12	社会環境と健康（2） 保健医療政策と人々の健康	神田秀幸
13	労働環境と健康（1） 労働衛生管理体制と働く人の健康	神田秀幸
14	労働環境と健康（2） 産業中毒とその対策	神田秀幸
15	労働環境と健康（3） 産業医・産業保健スタッフの役割	神田秀幸

環境医学Ⅱ

Environmental Medicine Ⅱ

単位数：2単位

- 神田秀幸 教授：環境保健医学
嘉数直樹 准教授：環境予防医学
山崎雅之 学内講師：環境予防医学

1. 科目の教育方針

技術化、情報化が著しく進歩した反面、環境問題やライフスタイルの変容、高齢化など種々の問題を抱える現代社会において、身体的・社会的・精神的な面での不適応から様々な健康問題が生じてきている。これら人間の健康に関わる諸問題を“生涯を通じての健康”を目指した健康教育の理念や方法論を確立していくことが求められる。また健康に関わる諸事項について周辺領域を含めて学際的知識と実践技術を体系的に習得し、現代生活に潜む健康課題に対する問題解決能力を養うことを学習する。環境医学Ⅱでは各論的な内容を主とし、各課題に対して周辺関連領域の知識を含めた、深く掘り下げた理解と議論を展開する。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 自然・生活・社会環境と健康との関連を理解する。
- 2) 環境と健康との関連を歴史的、文化的な文脈 context から理解する。
- 3) 健康を支援する環境づくりや環境に順応した人間行動を理解する。
- 4) 健康課題に対応する人類生態学、政策科学の概念と方法を理解する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 自然・生活・社会環境と健康との関連を列記することができる。
- 2) 環境と健康との関連を歴史的、文化的な文脈 context から例示することができる。
- 3) 健康を支援する環境づくりの要件を述べることができる。
- 4) 地球環境問題における環境に順応した人間行動を例示することができる。
- 5) 人類生態学、政策科学の概念と方法の特徴を述べることができる。

3. 教育の方法、進め方

担当教員による講義を主としながらも、発言や思考時間を設けた双方向型の授業展開を行う。また、テーマによっては、学生によるプレゼンテーションやグループ討論を行い、学生自身が主体的に考える機会を設け、問題解決型思考を養う学習を行う。

4. 成績評価の方法

学生によるプレゼンテーションの内容や表現、グループ討論への取り組み状況、課題レポート等を用いて、総合的に行動目標の達成度を評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) Mary Dobson 著、小林力訳：Disease 人類を襲った30の病魔、医学書院、2010.
- 2) 日本禁煙学会編：禁煙学改訂2版、南山堂、2010.

※他、講義ごとに資料を配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担当
1	環境医学 総論	神田秀幸
2	環境医学各論(1) 生活と健康	嘉数直樹
3	環境医学各論(2) 社会と健康	神田秀幸
4	環境医学各論(3) 健康への自然と社会の相互作用	山崎雅之
5	地球環境問題(1) 地球温暖化	嘉数直樹
6	地球環境問題(2) 化学物質による環境汚染	嘉数直樹
7	地球環境問題(3) PM2.5による大気汚染	嘉数直樹
8	地球環境問題(4) 生物多様性と生態系の破壊	山崎雅之
9	社会環境問題(1) 社会経済格差	山崎雅之
10	社会環境問題(2) 飲酒・喫煙	神田秀幸
11	社会環境問題(3) 生活習慣	山崎雅之
12	社会環境問題(4) 職業ストレスとメンタルヘルス不全	嘉数直樹
13	人類生態学	山崎雅之
14	健康政策科学	山崎雅之
15	環境による発がん	嘉数直樹

医学・医療情報学 I
Medical Informatics I

単位数：2 単位

- 津本周作 教授：医療情報学
平野章二 准教授：医療情報学
河村敏彦 准教授：附属病院医療情報部

1. 科目の教育方針

医学・医療情報学とは、情報学の手法を広く取り入れて、基礎・臨床医学および医療に役立てることを目的とした学問である。本講義では、現在、情報学ではどのような先端的な研究がなされているかという基礎的な知識を与え、情報学の基本を習得させるとともに、それが今後どのように医療分野へ展開していくかということを展開させることを目的としている。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 医療情報システムについての基礎知識を学ぶ。
- 2) 情報セキュリティの基礎知識を学ぶ。
- 3) 情報学の最近の研究について学ぶ。
- 4) EBM の基礎技術である生物統計学について学ぶ。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 病院情報システムの基本的な構成について説明できる。
- 2) インターネット上でのセキュリティについての基本的考え方を説明できる。
- 3) 病院安全に要求される情報通信技術の基礎について説明できる。
- 4) 情報学の基本的な考え方を説明できる。
- 5) 生物統計学の手法を使って、データ解析できる。

3. 教育の方法、進め方

講義およびソフトウェアを使った実習で進める。

4. 成績評価の方法

課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) Shortliffe, E. and Cimino, J. Biomedical Informatics 4th Edition, Springer, 2014.
- 2) Dawson, B. and Trapp, R. Basic & Clinical Biostatistics: 4th Edition, McGraw-Hill Medical, 2004.

※適宜、資料を配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	病院情報システム	津本周作
2	診療情報の電子化	津本周作
3	情報ネットワーク	平野章二
4	個人情報保護と Pmark	平野章二
5	情報セキュリティ	平野章二
6	サービスコンピューティング	津本周作
7	データマイニング	津本周作
8	検定論	河村敏彦
9	実験計画法の基本的な考え方について	河村敏彦
10	分散分析	河村敏彦
11	ノンパラメトリック統計	河村敏彦
12	多重比較	平野章二
13	生存率解析	平野章二
14	判別分析	河村敏彦
15	品質管理	河村敏彦

地域医療学 I

Community Medicine I

単位数：2単位

○熊倉俊一 教授・地域医療教育学
石橋 豊 教授・総合医療学

神田秀幸 教授・環境保健医学
廣瀬昌博 教授・地域医療政策学

1. 科目の教育方針

地域医療学とは、高齢化・過疎化といった地域医療の現状を見据えて、大学病院をはじめとした拠点病院と一次、二次医療機関および福祉関連施設が密に連絡しあって地域医療を展開、その展開にどのようなアプローチが存在するかを多角的にとらえることを目的とした学問である。本講義では、地域医療学の現状をとらえつつ、従来からのアプローチから先端的な研究にまでを網羅し、それが今後どのように地域医療として展開していくかということ展望させることを目的としている。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 地域医療の現状を学ぶ。
- 2) 地域福祉の現状を学ぶ。
- 3) 地域医療に必要な疫学的アプローチについて学ぶ。
- 4) 地域医療に求められる医療人材の役割について学ぶ。
- 5) 地域医療に関する研究方法について学ぶ。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 地域医療の現状とその問題点について基本的事項を説明できる。
- 2) 地域福祉の現状とその問題点について基本的事項を説明できる。
- 3) 疫学的アプローチを使って地域保健指標の評価ができる。
- 4) 地域医療における各種医療機関の役割について説明できる。
- 5) 地域医療を対象とした研究方法に関する基本的知識について説明できる。
- 6) 地域医療を対象とした研究について説明できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

4. 成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) World Health Organization. Increasing access to health workers in remote and rural areas through improved retention. Global policy recommendations. 2010.
[<http://www.who.int/entity/hrh/retention/guidelines/en/>]
- 2) Organization for Economic Cooperation and Development. OECD Factbook 2014. Economic, Environmental and Social Statistics. 2014.
[<http://www.oecd-ilibrary.org/economics/oecd-factbook-2014-factbook-2014-en>]

3) 自治医科大学監修：地域医療テキスト、医学書院、2009.

4) John A.Dent・Ronald M. Harden 著、鈴木康之・錦織宏監訳 相野由紀子・鈴木
なおみ・足立拓也・吉村仁志編集：医学教育の理論と実践、篠原出版新社、2010.

※その他、講義ごとに資料を配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	地域医療学総論	熊倉俊一
2	世界の地域医療の現状と課題	熊倉俊一
3	島根県における地域医療の現状と将来展望	熊倉俊一
4	地域医療を担う人材育成	熊倉俊一
5	地域保健医療と疫学（1）地域診断の基礎	神田秀幸
6	地域保健医療と疫学（2）地域診断の応用	神田秀幸
7	地域保健医療と疫学（3）地域診断を活用した地域医療の展開	神田秀幸
8	地域保健活動の実際	神田秀幸
9	地域医療と町創り	石橋 豊
10	地域医療における病院、開業医、診療所の役割	石橋 豊
11	地域医療における病病連携と病診連携	石橋 豊
12	地域医療における保健・医療・福祉連携	石橋 豊
13	地域医療に関する研究とその方法	廣瀬昌博
14	ビッグデータを用いた地域医療の考え方	廣瀬昌博
15	地域医療に関する研究と医療倫理	廣瀬昌博

地域医療学Ⅱ Community Medicine Ⅱ

単位数：2単位

○津本周作 教授：医療情報学
河村敏彦 准教授：附属病院医療情報部

平野章二 准教授：医療情報学

1. 科目の教育方針

地域医療学とは、高齢化・過疎化といった地域医療の現状を見据えて、大学病院をはじめとした拠点病院と一次、二次医療機関および福祉関連施設が密に連絡しあって地域医療を展開、その展開にどのようなアプローチが存在するかを多角的にとらえることを目的とした学問である。本講義では、地域医療学の現状を情報通信技術の観点からとらえた情報学的アプローチについて概説する。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 情報セキュリティの現状を学ぶ。
- 2) 地域医療に必要な情報通信技術について学ぶ。
- 3) 地域医療に関わる情報学の基礎について学ぶ。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 情報通信技術の現状とその問題点について基本的事項を説明できる。
- 2) 情報セキュリティの現状とその問題点について基本的事項を説明できる。
- 3) 遠隔医療に関わる情報学の基本的知識について説明できる。

3. 教育の方法、進め方

講義およびソフトウェアを使ったデモ、学生によるプレゼンテーションで進める。

4. 成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

【参考文献】

- 1) Fong, B. Fong, A.C.M. and Li, C.K. Telemedicine Technologies: Information Technologies in Medicine and Telehealth Wiley, 2010.
- 2) Latifi, R. Current Principles and Practices of Telemedicine and e-Health., IOS Press, 2008.
- 3) Levin, R.I., Rubin, D.S. Statistics for Management, Pearson Education Limited, 2013.

※適宜、資料を配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	医療の分担と遠隔医療	津本周作
2	電子カルテを基盤とする地域医療連携ネットワーク	津本周作
3	品質管理	河村敏彦
4	情報学的なマネジメント技術：情報の可視化	河村敏彦
5	情報学的なマネジメント技術：データマイニング	河村敏彦
6	情報学的なマネジメント技術：統計モデリング	河村敏彦
7	情報学的なマネジメント技術：タグチメソッド	河村敏彦
8	医療情報システム概論	津本周作
9	診療情報管理	津本周作
10	診療情報の二次利用	津本周作
11	クラウドコンピューティング	平野章二
12	医療情報交換のための標準規約	平野章二
13	標準化構造化医療記録情報交換規約	平野章二
14	医療情報交換に必要なネットワークの仕様	平野章二
15	医療情報交換に必要なネットワークの実践	平野章二

総合診療学 I
general medicine/family medicine I

単位数：2単位

○熊倉俊一 教授・地域医療教育学 石橋 豊 教授・総合医療学
廣瀬昌博 教授・地域医療政策学

1. 科目の教育方針

地域医療における指導者、特に、総合診療を担う指導者として活躍するために、地域や我が国の医療が直面する様々な課題を理解して解決策を展望できる能力を修得するとともに、指導者として必要な教育技法や国際的視野を涵養するための方策等について学ぶ。また、生活習慣病や加齢と動脈硬化、がん、認知症など地域の医療に密接に関連する疾患についての基礎・臨床研究や疫学研究、または、コホート研究等を遂行していくために必要な専門的知識を修得し、自立して研究活動を実践できる能力を身につける。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 地域医療が抱える課題に対して適切に対処できるようになるために、島根県および日本の医療資源や医療経済、行政、介護・福祉等についての知識を修得する。
- 2) 医療における国際的視野を涵養するために、海外の医療の現状を学ぶ。
- 3) 地域における患者・医師の良好な関係を構築し、コミュニケーションを円滑に実施できるようになるために、地域医療の体験を通じて基本的な技能と態度を身につける。
- 4) 信頼される地域医療を提供していくことができるようになるために、医の倫理・プロフェッショナリズムを身につける。
- 5) 将来指導者としての役割を担うことができるようになるために、シミュレータ教育を含めた医学教育の知識と技能を修得する。
- 6) 研究を適切に実施することができるようになるために、研究に関する倫理と研究者としての適切な姿勢を修得する。
- 7) 研究を自立的に実施することができるようになるために、統計学と研究の遂行方法について修得する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 解決すべき地域・総合医療の課題を説明できる。
- 2) 地域・総合医療の課題に対する解決策を列挙できる。
- 3) 海外と日本の医療の違いを概説できる。
- 4) 研究における倫理と利益相反を説明できる。
- 5) 自立的に研究活動を実践するために必要な事項を説明できる。
- 6) 良好な患者・医師関係を構築することができる。
- 7) 総合医療の担い手としての優れた倫理感を備えることができる。
- 8) 教育技法を理解し、医療者の教育を実践できる。
- 9) 優れた倫理感に基づいた研究を実践できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

4. 成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) リチャード・クルーズ他：医療プロフェッショナルリズム教育、日本評論社、2012.
- 2) ロナルド・ハーデン他：医学教育の理論と実践、篠原出版新社、2010.
- 3) 自治医科大学監修：地域医療テキスト、医学書院、2009.
- 4) World Health Organization. Increasing access to health workers in remote and rural areas through improved retention. Global policy recommendations. (2010)
<http://www.who.int/entity/hrh/retention/guidelines/en/>
- 5) Organization for Economic Cooperation and Development. OECD Factbook 2014. Economic, Environmental and Social Statistics. (2014)
http://www.oecd-ilibrary.org/economics/oecd_factbook-2014_factbook-2014-en

※その他、講義ごとに資料を配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担当
1	総合診療学総論	熊倉俊一
2	我が国・海外における総合医療の現状と課題	熊倉俊一
3	Common disease；診断と治療・予防	熊倉俊一
4	生活習慣病（高血圧症・脂質異常症）；診断と治療・予防	熊倉俊一
5	生活習慣病（糖尿病・メタボリックシンドローム）；診断と治療・予防	熊倉俊一
6	Common disease と生活習慣病；臨床研究のあり方について	熊倉俊一
7	がんと総合診療	熊倉俊一
8	地域における総合診療の役割と病病連携・病診連携	石橋 豊
9	総合診療医の育成プログラム	石橋 豊
10	総合診療とリサーチ	石橋 豊
11	総合診療と国際的視野の涵養	石橋 豊
12	総合医療に関する研究とその方法	廣瀬昌博
13	地域包括ケアにおける総合診療	廣瀬昌博
14	総合診療と医療倫理	廣瀬昌博
15	ビッグデータを用いた総合医療の解析と評価	廣瀬昌博

総合診療学Ⅱ
general medicine/family medicineⅡ

単位数：2単位

○石橋 豊 教授：総合医療学 廣瀬昌博 教授：地域医療政策学
熊倉俊一 教授：地域医療教育学

1. 科目の教育方針

地域医療における指導者、特に、総合診療を担う指導者として活躍するために、地域や我が国の医療が直面する様々な課題を理解して解決策を展望できる能力を修得するとともに、指導者として必要な教育技法や国際的視野を涵養するための方策等について学ぶ。また、生活習慣病や加齢と動脈硬化、がん、認知症など地域の医療に密接に関連する疾患についての基礎・臨床研究や疫学研究、または、コホート研究等を遂行していくために必要な専門的知識を修得し、自立して研究活動を実践できる能力を身につける。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 地域医療が抱える課題に対して適切に対処できるようになるために、島根県および日本の医療資源や医療経済、行政、介護・福祉等についての知識を修得する。
- 2) 医療における国際的視野を涵養するために、海外の医療の現状を学ぶ。
- 3) 地域における患者・医師の良好な関係を構築し、コミュニケーションを円滑に実施できるようになるために、地域医療の体験を通じて、基本的な技能と態度を身につける。
- 4) 信頼される地域医療を提供していくことができるようになるために、医の倫理・プロフェッショナリズムを身につける。
- 5) 将来指導者としての役割を担うことができるようになるために、シミュレータ教育を含めた医学教育の知識と技能を修得する。
- 6) 研究を適切に実施することができるようになるために、研究に関する倫理と研究者としての適切な姿勢を修得する。
- 7) 研究を自立的に実施することができるようになるために、統計学と研究の遂行方法について修得する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 解決すべき地域医療の課題を説明できる。
- 2) 地域医療の課題に対する解決策を列挙できる。
- 3) 海外と日本の医療の違いを概説できる。
- 4) 研究における倫理と利益相反を説明できる。
- 5) 自立的に研究活動を実践するために必要な事項を説明できる。
- 6) 良好な患者・医師関係を構築することができる。
- 7) 地域医療の担い手としての優れた倫理感を備えることができる。
- 8) 教育技法を理解し、医療者の教育を実践できる。
- 9) 優れた倫理感に基づいた研究を実践できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

4. 成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

総合診療学 I に同じ

6. 教育内容

回	授業内容	担当
1	医学教育特論 (低・中学年 (1年生～4年生) 医学教育)	石橋 豊
2	シミュレータ教育 (1) 医学教育とシミュレーター	石橋 豊
3	シミュレータ教育 (2) 総合医に必要な診療技術修得とシミュレータ教育	石橋 豊
4	看護と地域医療 (1) 総合医育成と看護	石橋 豊
5	看護と地域医療 (2) 総合診療と看護	石橋 豊
6	介護・福祉と地域医療	石橋 豊
7	医療行政と地域医療特論 A 地域医療構想と医療行政	石橋 豊
8	医療行政と地域医療特論 B コミュニティの成長における医療行政の役割	石橋 豊
9	医療情報システム学特別講義	石橋 豊
10	実用医用統計学 (1) 健康に関する統計学の概念と基本 (講義)	廣瀬昌博
11	実用医用統計学 (2) 研究遂行の実践手法 (ワークショップ)	廣瀬昌博
12	地域における健康増進・疾病予防	熊倉俊一
13	地域における医療提供体制のあり方	熊倉俊一
14	地域の医療を担う人材の育成と支援	熊倉俊一
15	地域医療を守る住民活動	熊倉俊一

臨床医学と社会・環境医学への高度情報学の応用
Point of contact between Clinical, Social and Environmental
Medicine and Advanced Informatics

単位数：2単位

- 長井 篤 教授：医学系研究科医科学専攻 臨床検査医学
- 並河 徹 教授：医学系研究科医科学専攻 病態病理学
- 津本周作 教授：医学系研究科医科学専攻 医療情報学
- 神田秀幸 教授：医学系研究科医科学専攻 環境保健医学
- 磯村 実 講師：医学系研究科医科学専攻 病態病理学
- 山崎雅之 学内講師：医学系研究科医科学専攻 環境予防医学
- 平川正人 教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 情報システム学
- 石賀裕明 教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 地球資源環境学
- 岡本 寛 教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 情報システム学
- 廣富哲也 准教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 情報システム学

1. 科目の教育方針

高度情報学に関する人間および環境との係わり、それらの研究の動向などについて、情報工学の基礎から現代社会での活用事例まで、講義・セミナー等において学ぶ。さらにその医学への応用については医学情報の持つ基礎的性格を理解し、がんを含む生活習慣病の遺伝学や疫学的研究手法を学ぶことで社会・環境医学の研究法とシステムを学ぶ。また、臨床現場で活用されている疫学や臨床検査学の研究方法、医療サービス設計などを理解する。基礎知識から臨床応用への発展を段階的に理解できるようにオムニバス形式の講義・セミナーで学ぶ。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 情報技術の現状と展望について理解できる。
- 2) 情報と環境との係わりを理解できる。
- 3) 医学情報の個人情報保護、疫学的な特徴、医療サービス設計への応用を理解できる。
- 4) 医学情報からのデータマイニングの方法を理解できる。
- 5) 医学情報を用いたがんを含む生活習慣病の遺伝学、臨床検査学への応用を理解できる。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 利用者から捉えた最近の情報処理技術の動向について理解できる。
- 2) 情報との係わりの上で環境問題の現状について概説できる。
- 3) 医学情報の個人情報保護、疫学的な特徴、医療サービス設計への応用を説明できる。
- 4) 医学情報からのデータマイニングの方法を説明できる。
- 5) 医学情報を用いたがんを含む生活習慣病の遺伝学、臨床検査学への応用を概説できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

4. 成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) 福嶋義光監修：遺伝医学 やさしい系統講義 18 講、メディカル・サイエンス・インターナショナル、2013.
- 2) 村松正實・木南凌監訳：ヒトの分子遺伝学第 4 版、メディカル・サイエンス・インターナショナル、2011.
- 3) 河合忠著：異常値の出るメカニズム第 6 版、医学書院、2013.
- 4) 日本臨床検査医学会ガイドライン作成委員会編集：臨床検査のガイドライン JSLM2012、日本臨床検査医学会、2012.

※項目ごとに適宜文献を示す。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	情報活用に向けた人間指向コンピュータデザイン	平川正人
2	心とコンピュータ	平川正人
3	脳とコンピュータ	平川正人
4	身体とコンピュータ	平川正人
5	センサ技術と情報処理	岡本 覚
6	情報通信技術とアシスティブ・テクノロジー	廣富哲也
7	科学的情報をもとにした環境問題の解明と対策	石賀裕明
8	疫学資料の収集	神田秀幸
9	疫学資料と統計解析	神田秀幸
10	生活・健康福祉システムの活用	山崎雅之
11	生活習慣病の集団遺伝学 1 ：遺伝子はどのように生活習慣病発症にかかわるか	並河 徹
12	生活習慣病の集団遺伝学 2 ：生活習慣病遺伝子の同定法	磯村 実
13	データマイニングの基礎	津本周作
14	地理情報システムの理解と活用	神田秀幸
15	臨床検査情報学 1) 医学統計から導かれる臨床基準値の考え方 2) 情報学を活用した最先端検査技術を理解する	長井 篤

知的財産と社会連携

Intellectual properties and Social contribution

単位数：2単位

○中村守彦 教授：医学系研究科医科学専攻 産学連携センター地域医学共同研究部門
阿久戸敬治 教授：産学連携センター

1. 科目の教育方針

知的財産に関する基礎および応用知識を講義・セミナー・実習等において習得し、さらにがん医療や次世代看護福祉などの高度医療における知的財産権を理解し、医工連携および看工農連携の研究事例や産学連携による新産業創出についての特論をオムニバス形式で学ぶ。知的財産について学んだ事柄を遂行できる力を培い、将来、産学連携による共同研究等を実施できる能力を養う。医療・看護の質向上に資する知的財産教育を実践し、専門的な知的財産権を活用して社会貢献できる人材を養成する。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 知的財産および知的財産権の概要を理解する。
- 2) 医療領域における知的財産権の概要を理解する。
- 3) 医・理工農連携および看工農連携の研究事例について理解を深める。
- 4) 産学連携による新技術創出の状況を把握する。
- 5) 産学連携を社会連携の視点から理解する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 知的財産権の創造・保護・活用を説明できる。
- 2) 医療分野における知的財産権の重要性を説明できる。
- 3) 医・理工農連携および看工農連携による研究開発にあたり知的財産権を理解し行動することができる。
- 4) 医・理工農連携および看工農連携による実用化の事例を説明できる。
- 5) 研究・開発のマネジメントを説明できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。研究事例については、医・看工農連携による成果を体験実習して講義内容を深める。

4. 成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、体験実習における態度、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) 辻本一義：研究・教育・ビジネス現場のための特許・知的財産権の教科書、PHP 研究所、2004.
 - 2) 隅蔵康一：これからの生命科学研究者のためのバイオ特許入門講座、羊土社、2003.
 - 3) 出川通：最新MOT〈技術経営〉がよくわかる本、秀和システム、2005.
 - 4) 技術経営コンソーシアム編集、三菱総合研究所監修：標準MOTガイド、日経BP社 2006.
 - 5) 沼上 幹：「わかりやすいマーケティング戦略」、有斐閣アルマ、2008.
- ※他、適宜特許公報、文献、資料などを配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	イントロダクション	中村守彦 阿久戸敬治
2	知的財産概論 1 (基礎編)	阿久戸敬治
3	知的財産概論 2 (応用編)	阿久戸敬治
4	知的財産権 1 (創造)	阿久戸敬治
5	知的財産権 2 (保護)	阿久戸敬治
6	知的財産権 3 (活用)	阿久戸敬治
7	知的財産特論 1 (医療分野)	中村守彦
8	知的財産特論 2 (医工連携)	中村守彦
9	医・看工農連携による研究事例 1 (総合事例)	中村守彦
10	医・看工農連携による研究事例 2 (島根大学の事例)	中村守彦
11	教育研究と社会連携	中村守彦
12	研究と開発のマネジメント	中村守彦
13	産学連携による新事業創出事例	中村守彦
14	看護学を核とした学際融合研究と知的財産の創出	中村守彦
15		

機能性物質・食品の医療応用と環境影響

Medical Application and Environmental influence of Functional Materials and Foods

単位数：2単位

- 原田 守 教授：医学系研究科医科学専攻 免疫学
和田孝一郎 教授：医学系研究科医科学専攻 薬理学
川内秀之 教授：医学系研究科医科学専攻 耳鼻咽喉科学
嘉数直樹 准教授：医学系研究科医科学専攻 環境予防医学
福田誠司 教授：臨床看護学講座
半田 真 教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 物質化学
田中秀和 教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 物質化学
西垣内寛 教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 物質化学
小俣光司 教授：総合理工学研究科総合理工学専攻 物質化学
板村裕之 (H28年度まで) 教授：連合農学研究科生物生産科学専攻
中務 明 (H29年度から) 准教授：連合農学研究科生物生産科学専攻
川向 誠 教授：連合農学研究科生物資源科学専攻
鈴木美成 准教授：連合農学研究科生物環境科学専攻

1. 科目の教育方針

医療材料の開発とそれに伴う医療技術の進歩は、医療全般の向上に大きく貢献してきた。本科目では、医学専門家の立場からは、実際に医学に応用され医療の向上に貢献している機能性物質・食品について説明する。特に、生体の恒常性の維持に必須なシステムである免疫系、内分泌系、消化器系に焦点を当て、それらの基本的な作用機序・特性などを医学的・臨床的な視点から概説する。また、理工農学専門家の立場からは、生体内において多彩な機能を発揮する物質の開発や設計、化学物質としての環境への影響について、さらに、機能性食品としての市場性などについて概説する。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 生理的条件下での機能性物質の特性を理解する。
- 2) 栄養分や薬剤として有効な物質の効果を理解する。
- 3) 生体内での機能性物質の作用を説明できる。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 新規機能性物質の開発・設計・合成の手法および生体内での機能について理解する。
- 2) アレルギー疾患制御、免疫賦活などの生命現象に関与する化合物を説明できる。
機能性食品について理解する。

- 3) がん治療への機能性物質の適用を説明できる。
- 4) 栄養分輸送の媒体である水、基本的栄養素であるミネラル（微量無機元素）の生体内での機能を理解する。
- 5) 環境における機能性物質の特性と挙動、および環境への影響を理解する。
- 6) 健康維持の中心的役割を果たしている消化管への機能性物質の影響を理解する。
- 7) 内分泌かく乱物質の性質と生体への影響を理解する。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。

4. 成績評価の方法

プレゼンテーションの内容、討論への取り組み状況、課題レポート等について行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) 上野川修一・清水俊雄・清水誠・鈴木英毅・武田英二編：機能性食品の作用と安全性百科、丸善出版、2012.
 - 2) 清水俊雄：食品バイオの制度と科学－遺伝子組換え食品からニュートリゲノミクス－、同文書院、2007.
 - 3) 那須正夫・和田啓爾：食品衛生学「食の安全」の科学、南江堂、2011.
 - 4) 中島泉・高橋利忠・吉開泰信：シンプル免疫学、南江堂、2011.
- ※他、適宜文献、資料などを配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	消化器系と機能性物質 健康維持の中心的役割を果たしている消化管への機能性物質の影響を解説する	和田孝一郎
2	アレルギー疾患の制御に向けた機能性食品の開発と現状 アレルギー性鼻炎の病態や症状について解説すると共に症状を緩和する機能性食品の開発の現状を解説する	川内秀之
3	機能性物質による抗がん免疫の誘導とがん治療	原田 守
4	機能性物質の生活習慣病治療への応用 生活習慣病治療における機能性物質の貢献 ー現状と課題ー	嘉数直樹
5	機能性食品と食の安全 我が国における機能性食品の現状と食の安全への取り組み	嘉数直樹

6	機能性物質の細胞への作用 機能性物質の正常細胞とがん細胞への効果の相違について解説する	福田誠司
7	機能性食品による免疫応答増強に関する研究	原田 守
8	内分泌かく乱物質：環境ホルモンは機能性物質か？ 内分泌かく乱物質の性質と生体への影響を解説する	和田孝一郎
9	化学物質の環境への影響	田中秀和
10	新しい統計手法をつかった機能性物質の設計	小俣光司
11	機能性色素材料としてのフタロシアニン	半田 真
12	機能性物質の有機合成	西垣内 寛
13	農作物の機能特性と利用	板村裕之
14	微生物による食品サプリメントの生産と市場性	川向 誠
15	生体におけるミネラル（微量元素の機能）	鈴木美成

平成28年度時間割(博士前期課程・博士後期課程(網掛けは関連科目))

前期

	1・2 時限 8:30～ 10:00	3・4 時限 10:15～ 11:45	5・6 時限 12:45～ 14:15	7・8 時限 14:30～ 16:00	9・10 時限 16:15～ 17:45	11・12 時限 18:00～19:30	13・14 時限 19:30～21:00
月						超高齢看護 開発特講 N502	安全ケア システム 開発特講 N502
火		看護理論 N502	高齢者 看護学特論 N502	母子看護学 特論 3F	母子フィジカル アセスメント 方法論 3F	看護管理学 特論 N502	
				成人(急性・ 慢性)看護学 特論 N404	重症者フィジカル アセスメント 方法論 N502	地域・在宅 看護学特論 N601	
水							
木			看護情報 管理論 1 研	看護倫理 N502	看護研究方法演習 N502、情報演習室		
			高齢者看護 実践論 N502				
金						研究方法 特講 N502	超高齢看護学 研究演習 N502
土	土曜日等に嘱託講師の集中講義						
	講義日程についてはシラバス及び掲示で確認すること						

*2年次必修専門科目:「看護学特別研究」,「看護学課題研究」随時

*「高齢者看護学実習」については別途指示

※「超高齢看護学研究演習」のフィールドワークは夏季休業中に行うことがある

※「超高齢看護学特別研究」は随時

後期

	1・2 時限 8:30～ 10:00	3・4 時限 10:15～ 11:45	5・6 時限 12:45～ 14:15	7・8 時限 14:30～ 16:00	9・10 時限 16:15～ 17:45	11・12 時限 18:00～19:30	13・14 時限 19:30～21:00
月			高齢者在宅ケアシステム論 N502 高齢者看護援助論 N502			(コース別看護学演習)	
							総合診療学Ⅰ セミナー室
火			認知症看護論 N502 臨床薬理・薬剤学 N502		家族看護援助論 N404	(コース別看護学演習)	
水						(コース別看護学演習)	
						環境医学Ⅰ セミナー室	環境医学Ⅱ セミナー室
木			リスクマネジメント論 N502	看護人材育成論 N502	コンサルテーション論 N502	保健医療福祉政策論 N502	医学・医療情報学Ⅰ セミナー室
金						(コース別看護学演習)	
						超高齢看護学 研究演習 N502	がん医療社会学 セミナー室
土	土曜日等に嘱託講師の集中講義						
	講義日程についてはシラバス及び掲示で確認すること						

*2年次必修専門科目:「看護学特別研究」、「看護学課題研究」随時

*「高齢者看護学実習」については別途指示

※「超高齢看護学特別研究」は随時

※関連科目「地域がん治療学」「緩和ケア学」「臨床医学と社会・環境医学への高度情報学の応用」「知的財産と社会連携」「機能性物質・食品の医療応用と環境影響」は、土曜日等の集中講義(9月～3月)

※関連科目の授業は、状況によって時間割を変更することがあります。